

荒砥北原遺跡
今井神社古墳群
荒砥青柳遺跡

遺物觀察表

1986

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	四神馬場組職文庫 圖書部 圖書部	01-353
98- No. 5041	平成10年 5月13日	276
		2 (7)

荒砥北原遺跡
今井神社古墳群
荒砥青柳遺跡

遺物觀察表

1986

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

荒砥北原遺跡

1号住居址出土遺物 (第6・7図、P L 22)

土 器

(単位: cm)

番号	器 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器 形 ・ 文 様 の 特 徴	備 考
1	深 鉢		床面直上	①石英、小礫、軽石、粗砂、繊維混入②良好③赤褐色	1・2の器形は、口縁が直立ぎみに開口し、胴部中位でゆるく括れる。2～5は同一個体で、1・8とともに外面に煤状の炭化物が付着し、6・7・9・14は内面に炭化物が付着する。1～15の内面は、良好に研磨されている。縄文原形は1・7・12がL、2・6がR、9がLR、10・11がRLで、8はLRとRLの2種を使用する。2・8・9・10は羽状縄文をもつが、8以外は同一原形を使用してその施文方向を変えることにより表出する。13は無文で表面はやや荒れている。14・15の底部は、上げ底状を呈し、その端部は稜をもつように外側へ張り出す。	黒 浜 式
2 5	深 鉢		埋没土中	①石英、軽石、粗砂、繊維混入②良好③黒～黄褐色		
6	深 鉢		埋没土中	①軽石、粗砂、繊維含む②良好③鈍い褐色		
7	深 鉢		埋没土中	①結晶片岩礫、粗砂、軽石、繊維混入②鈍い褐色		
8	深 鉢		埋没土中	①石英、軽石、粗砂、繊維混入②良好③鈍い褐色		
9	深 鉢		埋没土中	①礫、粗砂、繊維混入②良好③鈍い赤褐色		
10	深 鉢		埋没土中	①結晶片岩礫、粗砂、繊維混入②良好③鈍い褐色		
11	深 鉢		床面直上	①粗・細砂、繊維混入②良好③鈍い橙色		
12	深 鉢		埋没土中	①石英、粗砂、繊維混入②良好③鈍い黄褐色		
13	深 鉢		埋没土中	①結晶片岩礫、繊維混入②良好③鈍い赤褐色		
14	深 鉢	底(10.4)	埋没土中	①礫、粗砂、繊維混入②良好③鈍い橙色④底部1/4		
15	深 鉢	底(7.4)	埋没土中	①結晶片岩礫、繊維混入②良好③鈍い赤褐色④底部1/4		

石 器

(単位: cm・g)

番号	器 種	大 き さ ・ 重 量	出土状態	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴
16	軽石未製品	長 8.1 幅 6.1 厚 3.5 重 41	埋没土中	デイサイト質(?)軽石	赤城山給源の大胡火砕流にみられるものと類似した軽石である。明瞭な加工痕は認められないが、浮子の未製品と思われる。
17	磨 石	長 10.0 幅 10.5 厚 6.5 重 1080	床面直上	輝石安山岩(粗粒)	円形状のやや厚みのある河床礫を素材とする。側縁を除いた表・裏面に磨り面をもつ。側縁の一部に敲打痕が認められる。
18	削 器	長 4.9 幅 7.5 厚 1.4 重 57	埋没土中	黒色頁岩	横長の不定形剥片を素材とする。上縁に自然面を残す。刃部は表面からの片面剥離が施され、刃こぼれ状の使用痕が認められる。裏面にはバルブを除去するような剥離が施される。
19	削 器	長 6.3 幅 8.8 厚 1.4 重 61	埋没土中	黒色頁岩	横長の不定形剥片を素材とする。18と同様、上縁に自然面を残す。左側縁には裏面からの微細な剥離が施されるが、下縁は表面からの剥離が施される。

荒砥北原遺跡

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
20	削器	長 6.5 幅 6.0 厚 1.2 重 48	埋没土中	黒色頁岩	縦長の不定形剥片を素材とする。上縁に自然面を残し、表面の周縁に微細な剥離を施している。
21	削器	長 6.6 幅 7.6 厚 1.7 重 117	床面直上	黒色頁岩	表面に自然面を残す。周縁にやや細かい剥離が施され、表→裏の順に加工される。下縁には、使用によるわずかな磨耗痕が認められる。
22	削器	長 (6.2) 幅 12.0 厚 1.9 重 (119)	床面直上	黒色頁岩	横長の不定形剥片を素材とする。表面に自然面を残し、上端を欠損する。周縁には表→裏の順に細かい剥離が施されるが、やや突出した左側縁は敲打によるつぶれが認められる。
23	使用痕ある剥片	長 8.5 幅 6.0 厚 1.8 重 105	床面直上	黒色頁岩	小礫を輪切り状にした不定形の縦長剥片を素材とする。上縁に自然面を残し、左右の両側縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。

2号住居址出土遺物(第9・10図、P L 22)

土器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形・文様の特徴	備考
1	深鉢	口 45.8 高 (53)	炉埋設	①粗砂混入②良好③浅黄橙・灰色④胴部下半欠損		4単位の波状口縁を呈する。口縁が内湾するキャリパー状の器形をもつ。内・外面とも良好に研磨される。文様は断面三角形の微隆起帯をU字・渦巻状に貼付した後に、その両側を指頭でなでている。縄文はRLで区画内に充填されるが、縄文施文後に微隆起帯のなぞりが行われている。	加E3式
2	深鉢	口(22.6)	埋没土中	①結晶片岩礫、粗砂混入②良好③鈍い橙色④口縁部½		口縁が内湾するキャリパー状の器形をもつ。内面は良好に研磨される。文様は口唇下に棒状工具によるやや細い沈線が一条めぐり、以下にL縄文が縦位に施文される。	
3	深鉢		+10	①粗・細砂混入②良好③灰・灰白色		口縁の内湾の弱いキャリパー形。内・外面とも良好に研磨される。文様は、口縁・胴部ともに隆帯によって表出されるが、胴部には渦巻状の文様が施される。RL縄文が充填され、施文後に隆帯区画文のなぞりが行われる。	
4	深鉢	底(8.8)	+20	①粗・細砂、軽石混入②良好③灰白色④胴部下半½		内・外面ともに火熱によって風化し、内面には煤状の炭化物が付着する。文様は、平行状の沈線懸垂文の施文後にLR縄文を施文し、沈線文のなぞりが加えられる。	
5	深鉢		床面直上	①粗・細砂混入②良好③灰白・橙色④胴部中位½		2本1単位の微隆起帯によって渦巻文を施し、その内側にRL縄文を充填するが、縄文施文後に幅の広い半截竹管状工具によって微隆起帯になぞりが加えられる。	
6	深鉢	口 22.0	+4	①細砂混入②良好③灰・灰白色④胴部上半~口縁½		推定6単位の波状口縁。器形は口縁が内湾し緩やかな曲線を描いて底部へ移行する。文様は口唇下に一条の幅広い沈線をめぐらせ、胴部には2本1単位のΠ字懸垂文を施す。区画内にはL縄文が充填され、Π字状のなぞりが部分的に行われる。	
7	浅鉢		+12	①粗・細砂混入②良好③鈍い赤褐色		口唇下に幅広い無文部において、一条の沈線をめぐらせる。以下は6本歯の櫛歯状工具により、条線文が全面に施文される。	

石器

(単位: cm・g)

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
8	打製石斧	長 (7.6) 幅 5.4 厚 1.6 重 (77)	埋没土中	黒色頁岩	短冊形を呈する。上部の約½を欠損する。刃部およびその付近に縦方向の磨耗痕が認められるが、刃部には表面からの再調整加工が施されている。両側縁中央部のほぼ対称位置に、つぶれが認められる。

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
9	打製石斧	長 10.5 幅 5.0 厚 1.3 重 84	床面直上	灰色安山岩	短冊形を呈する。やや反りのある剥片を素材とする。表面に自然面を残し、刃部には刃こぼれ状の使用痕と縦方向の磨耗痕が認められる。左側縁は表→裏、右側縁は裏→表の順に加工される。
10	打製石斧	長 9.0 幅 5.0 厚 1.3 重 84	床面直上	黒色頁岩	分銅形を呈する。表面に自然面を残し、刃部は粗い剝離によって作出される。扶入部にはつぶれが認められ、わずかに磨滅している。
11	磨石	長 (9.0) 幅 5.3 厚 1.5 重 (117)	床面直上	変質安山岩	細長い河床礫を使用する。下部の約1/3を欠損する。表面にのみ、浅いスリ鉢状の磨面をもつ。
12	凹石	長 12.3 幅 7.2 厚 3.5 重 (1109)	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	扁平な河床礫を使用する。表面の中央部よりやや下位に、集合打痕によるくぼみ穴が2個認められる。左側縁を欠損している。

3号住居址出土遺物 (第12・13図、P L 23)

土器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調 ②焼成 ④残存	器形・文様の特徴	備考
1	深鉢	口(24.5)	埋没土中	①軽石、細砂混入②良好③灰黄褐色④口縁～胴部下位1/3	口縁が内湾ぎみに開口し、胴部で括れない器形。内外面に若干の煤状炭化物付着。外面は火熱によって風化している。文様は、口唇下にやや幅広い無文帯をおいて一条の微隆起帯がめぐり、以下はLR縄文が縦位に全面施文される。	加E4式
2	深鉢		埋没土中	①軽石、粗・細砂混入②良好③暗青灰・橙色④胴部上位～胴部下位1/3	口縁が内湾ぎみに開口し、胴部で括れない器形。内外面ともに良好に研磨されている。文様は、LR縄文が全面施文されているが、口縁部近くでは横位、胴部中位では縦位、同下位では不規則に施文されている。口唇下には微隆起帯がめぐると思われる。	
3	深鉢	口(44)	埋没土中	①軽石、粗細砂混入②良好③鈍い橙色④口縁～胴部中位1/3	口縁が直立ぎみに開口し、胴部で若干括れる器形と推定される。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて一条の微隆起帯がめぐり、以下にLR縄文が全面施文される。	
4	深鉢	口(14)	埋没土中	①軽石、粗・細砂混入②良好③黒褐色④口縁～胴部上位1/3	口縁が内湾するキャリバー形の器形と推定される。文様は口唇下に幅の狭い無文帯をおいて一条の微隆起帯がめぐり、以下にLR縄文が全面施文される。微隆起帯の一部に小突起が付される。	
5	深鉢		埋没土中	①軽石、粗・細砂混入②良好③灰黄・暗灰黄色	波状口縁を呈し、やや内湾ぎみに開口する器形。文様は、口唇下に幅の広い無文帯をおいて一条の微隆起帯がめぐり、その下位にV字状、Π状の文様が入組状に施される。区画内にはRL縄文が充填され、微隆起帯に沿って棒状工具によるなぞりが加えられる。	
6	深鉢		埋没土中	①軽石、礫・粗砂混入②良好③鈍い黄橙色	口縁がゆるく内湾し、胴部でわずかに括れる器形と推定される。内面に煤状炭化物が付着し、火熱による風化が見られる。無文土器で、表面にヘラによるナデが認められる。	
7	深鉢		埋没土中	①軽石、細砂混入②良好③黄灰色	口縁が内湾し、胴部で括れる器形と推定される。文様は細沈線によって波状文が描かれ、区画内にLR縄文が充填される。	
8	深鉢		埋没土中	①軽石、細砂混入②良好③鈍い黄橙色	文様は、なでつけによる微隆起帯を垂下させ、LR縄文を施文している。	
9	深鉢		埋没土中	①細砂混入②良好③鈍い黄橙色	文様は、細沈線によってV字状、Π状の区画文が施され、その区画内にLR縄文が充填される。	
10	深鉢		埋没土中	①軽石、細砂混入②良好③浅黄橙色	口縁が橋状把手をもつ。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて一条の微隆起帯をめぐらせ、以下にRL縄文を全面施文する。	

荒砥北原遺跡

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形・文様の特徴	備考
11 12	深鉢 (把手)		埋没土中	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③鈍い黄橙色		11・12は深鉢形土器の口縁突起であり、12は更に橋状把手が付される。11は微隆起帯を貼付し、12は橋状把手上にL R縄文が施文される。	加 E 4 式
13	匙形土製品		埋没土中	①軽石、細砂混入② 良好③鈍い黄橙・黒 灰色④柄部欠損		匙形土製品であるが、柄部を欠損する。身は楕円形を呈し、長径5.0×短径3.3cm、深さ1.0cmを測る。身部分の内外面に、成形時の指のおさえ痕が残る。	

石器

(単位：cm・g)

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
14	礫器	長 7.7 幅 11.5 厚 3.4 重 334	埋没土中	黒色頁岩	楕円形状の扁平な小礫を素材として加工を施し、その長軸を刃部としている。刃部は表→裏の順に加工される。
15	錐状石器 ?	長 9.7 幅 6.2 厚 2.9 重 179	埋没土中	黒色頁岩	縦長の不定形剥片を素材とし、表面に自然面を残す。上・下端に裏面からの剥離を施し、尖端部を作出するが、両端ともに欠損している。
16	打製石斧	長 7.6 幅 4.9 厚 1.8 重 87	埋没土中	黒色安山岩	短冊形を呈する。表面に自然面を残し、刃部および両側縁は粗い剥離によって作出される。
17	磨石	長 16.9 幅 8.6 厚 4.0 重 913	埋没土中	ひん岩(玢岩)	扁平な河床礫を素材とする。表面の中央よりやや下位と右側縁に敲打痕をもち、裏面には、磨り面が認められる。
18	凹石	長 11.5 幅 9.5 厚 4.8 重 621	埋没土中	輝石安山岩 (粗粒)	表・裏面に集合打痕によるくぼみ穴をもつ。両側縁および下端に、敲打痕が認められる。
19	軽石製品	長 5.1 幅 2.8 厚 2.4 重 13	埋没土中	輝石安山岩 質軽石	赤城山産出の軽石を素材としている。片面にのみ、やや湾曲した平滑面を作り出している。
20	軽石製品	長 5.5 幅 4.0 厚 1.2 重 10	埋没土中	輝石安山岩 質軽石	19と同様の軽石を素材として、表・裏面を平坦に加工している。器面が風化しているため不明瞭であるが、表面に整形時の擦痕がみられる。
21	石棒	長 10.3 幅 33.6 厚 8.0 重 4400	+10	点紋緑色片岩	器面の一部が節理面で剥落しているが、完形の無頭石棒である。頭部および体部は全面にわたって磨かれているが、基部の割れ面ではその周縁のみ研磨される。

4号住居址出土遺物(第15~17図、P L 24・25)

土器

(単位：cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形・文様の特徴	備考
1	深鉢	口 43.8	+3	①粗・細砂、軽石混入 ②良好③灰・鈍い 橙色④口縁~胴部下 半½		口縁が若干内湾するが、胴部の屈曲が少ない器形。文様は口唇下に幅広い無文部をおき、微隆起帯を横位にめぐらせ、以下にU字状や平行状の区画文を交互に施文する。区画文内にはL R縄文を縦位に充填するが、口縁付近では一段のみ横位に施文する。	加 E 4 式
2	深鉢	口(29.0)	+9	①粗・細砂、軽石混入 ②良好③鈍い橙色		口縁が若干内湾するが、胴部の屈曲の少ない器形。口縁外面に煤状炭化物が付着する。文様は口唇下に微隆起帯をめぐらせ、以下にL R縄文を全面施文するが、口縁付近では1段のみ横位施文。	
3	深鉢	口(53.0)	+10	①軽石、細砂混入② 良好③灰白色		口縁が内湾し、胴部中位で括れる器形。橋状把手をもつ。胴部中位外面に煤状炭化物が付着。文様は、口唇下に幅広い無文部をおき、一条の微隆起帯をめぐらせ、以下にL R縄文を縦位に施文。	
4	深鉢		埋没土中	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③鈍い橙色 ④胴部下半½		器高に比して底部の小さな器形と推定される。火熱による内外面の風化が著しい。文様は平行状の微隆起帯を垂下させた後にR L縄文を縦位に施文する。	

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形・文様の特徴	備考
5	深鉢	口(32.0)	+5	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③淡橙色④口縁～胴部中位 $\frac{1}{2}$		口縁が強く内湾するが、胴部の括れが弱い器形。口縁内・外面に煤状炭化物付着。文様は口唇下に幅広い無文部をおき、一条の微隆起帯をめぐらせ、以下にLR縄文を全面施文する。	加E 4式
6	深鉢	口(41.0)	+10	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③灰・浅黄橙色		口縁が内湾ぎみに開口する器形。内面は良好に研磨される。文様は口唇下に微隆起帯をめぐらせ、それと接続するように微隆起帯を垂下させる。各区画内に0段3条のRL縄文を充填し、微隆起帯の両脇になぞりを加える。	
7	深鉢	口(48.0)	+10	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③灰・赤橙色④口縁～胴部中位 $\frac{1}{2}$		口縁が直立ぎみに開口する器形。内面は風化して荒れている。文様は、口唇下に一条の沈線をめぐらせる。その下位に、波状文と楕円状の区画文が入組み状に交互に施文される。胴部下半には、微隆起帯による Ω 状文が施文される。各区画文内にはRL縄文を充填している。	
8	深鉢	口(35.0)	+10	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③灰・橙色④口縁～胴部中位 $\frac{1}{2}$		口縁が内湾し、胴部中位で強く括れる器形。推定4単位の波状口縁をもつ。波頂部はつまみ状の小突起となる。文様は口唇下に微隆起帯を一条めぐらせ、その下位に2本1単位の細沈線による渦巻文が施される。区画内にはRL縄文が充填される。	
9	深鉢	底 9.1	埋没土中	①軽石、細砂混入②良好③灰黄褐色④胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$		器高に比して底部の小さい器形。内外面ともに良好に研磨される。文様はRL縄文が全面施文されている。	
10	深鉢	底 7.4	埋没土中	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③橙・淡橙色④胴部中位～底部		器高に比して底部径の小さな器形で、胴部中位で括れる。内外面ともに火熱によって風化し、内面に煤状炭化物が付着する。文様は、細沈線によって Ω 状文が描かれ、その内側にRL縄文が充填される。	
11	深鉢		+10	①細砂混入②良好③灰色④口縁 $\frac{1}{2}$		口縁の内湾と胴部の括れが強いキャリパー状の器形と推定される。内外面とも良好に研磨。微隆起帯の渦巻文が施文される。	
12	深鉢	底 7.3	埋没土中	①軽石、細砂混入②良好③鈍い橙色		高台状の底部である。内外面ともに良好に研磨される。文様はみられない。	
13	深鉢	底 3.9	埋没土中	①軽石、細砂混入②良好③鈍い橙色		丸底状の底部をもつ。器高に比して、極端に底部の小さい器形と推定される。文様はL縄文が縦位に施文される。	
14 15	深鉢 (把手)		+7	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③浅黄橙・灰色		ともに深鉢形土器の把手で、表面が風化している。14は両生類の頭部を、15は鳥類の頭部を模したものと推定される。14の内面には、棒状工具による刺突が3箇所見られる。	

石器

(単位: cm・g)

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
16	削器	長 3.5 幅 2.4 厚 0.7 重 7	埋没土中	黒色頁岩	16～18は表・裏面ともに求心的な剥離が施されるものである。16・17は裏→表の順に加工されるが、18は不規則である。いずれにも明瞭な使用痕は認められない。
17	削器	長 3.5 幅 2.9 厚 0.7 重 8	埋没土中	黒色安山岩	
18	削器	長 3.8 幅 2.3 厚 1.0 重 9	埋没土中	黒色安山岩	
19	削器	長 4.9 幅 5.9 厚 0.7 重 28	埋没土中	黒色頁岩	横長の不定形剥片を素材とする。下縁には表面からの連続的な剥離が施され、左側縁から上縁にかけて刃ばれ状の使用痕が認められる。裏面のバルブは、表面からの剥離によって除去される。

荒砥北原遺跡

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
20	削器	長 3.5 幅 6.5 厚 0.8 重 20	埋没土中	輝石安山岩 (細粒)	横長の不定形剥片を素材として上端を折り取った後に、折断面を除いた周縁に細かい剥離を施す。左側縁は裏→表の順に加工される。
21	使用痕のある剥片	長 3.8 幅 7.0 厚 0.9 重 17	埋没土中	黒色頁岩	21・22ともに横長の不定形剥片を素材として、下縁に刃こぼれ状の使用痕が認められるものである。
22	使用痕のある剥片	長 4.0 幅 7.8 厚 1.0 重 22	埋没土中	黒色頁岩	
23	打製石斧	長 4.0 幅 2.8 厚 0.9 重 (12)	埋没土中	黒色頁岩	短冊形を呈すると思われる。刃部から左側縁の一部を残すのみで、他を欠損する。
24	打製石斧	長 (5.3) 幅 5.7 厚 1.3 重 (57)	埋没土中	黒色頁岩	短冊形を呈する。刃部および頭部を欠損する。表面に自然面を残し、両側縁には主に表面からの細かい剥離が施される。
25	敲石	長 (7.7) 幅 7.3 厚 3.7 重 (267)	埋没土中	輝石安山岩	細長い河床礫を粗材とするが、上半部を欠損する。下端および右側縁に、敲打痕が認められる。
26	石棒?	長 (9.0) 幅 5.0 厚 (1.7) 重 (138)	+10	緑色準片岩	上・下端および裏面が欠損している。裏面は節理面で割れている。明瞭な加工痕は認められないが、石棒の可能性もある。
27	石核	長 9.0 幅 8.3 厚 5.2 重 631	埋没土中	黒色頁岩	小ぶりの河床礫を用いて、その平坦な礫面から一方向に剥片剥離を行っている。

5号住居址出土遺物 (第19・20図、P L 25)

土器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形・文様の特徴	備考
1	深鉢	口 37.7	床面直上	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③灰・灰白色 ④口縁～胴部下位 $\frac{1}{2}$		口縁が内湾ぎみに開口し、胴部で括れない器形。内外面とも良好に研磨。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせ、それと接続するように平行状の微隆起帯を推定8単位に垂下させる。区画内にはLR縄文が充填される。	加E4式
2	浅鉢	口 26.0 底 7.2 高 32.0	埋没土中	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③暗灰・灰白色 ④完形		いわゆる「両耳壺」と呼ばれるもので、肩部に1対の橋状把手をもつ。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯がめぐり、以下にLR縄文を施文する。縄文は微隆起帯下の1段のみ横位で他は縦位となるが、胴部下位には施文されない。	
3	深鉢	口 (18.7)	床面埋設	①軽石、細砂混入② 良好③暗灰・灰白色 ④口縁～胴部中位 $\frac{1}{2}$		口縁の湾曲と胴部の括れが強いキャリバー状の器形。推定4単位の波状口縁を呈し、各波頂部に小突起が付される。文様は、口唇下にやや幅広い無文帯をおいて、胴部上半に細沈線によるV字状や楕円状の区画文を施す。区画内にはLR縄文が充填される。	
4	深鉢		床面直上	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③鈍い黄色		口縁が内湾ぎみに開口し、胴部で括れない器形。外面は若干風化している。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせ、これと接続させて平行状の微隆起帯を垂下させる。区画内にはLR縄文が充填される。	
5	深鉢	口 (42)	床面直上	①軽石、細砂混入② 良好③灰白色		口縁が内湾ぎみに開口する器形。内外面は風化し、内面に煤状炭化物が付着。口唇下に微隆起帯をめぐらせ、以下LR縄文施文。	

石 器

(単位: cm・g)

番号	器 種	大きさ・重 量	出土状態	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴
6	敲 石	長 16.9 幅 7.5 厚 3.3 重 714	床面直上	輝石安山岩 (細粒)	扁平な河床礫を使用する。上・下端に敲打痕が認められる。
7	凹 石	長 13.1 幅 7.0 厚 6.2 重 624	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	断面が隅丸方形の河原石を使用する。四面の各中央部に、集合打痕によるやや深くぼみ穴をもつ。
8	石 皿	長 (12.8) 幅 12.1 厚 6.4 重 (1022)	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	上半部が欠損している。表面には整形時の敲打痕を残し、あまり磨耗していない。裏面には、錐揉み状のくぼみ穴が見られるが、わずかに集合打痕によるくぼみ穴も存在する。くぼみ穴の加工は石皿の欠損前に行われている。
9	多 孔 石	長 25.5 幅 30.4 厚 10.6 重 9950	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	表・裏面の平坦な河床礫を使用するが、裏面は研磨による整形が行われている。表裏両面に錐揉み状のくぼみ穴が不規則につけられている。
10	軽石未製品	長 6.5 幅 3.4 厚 2.1 重 7	石組炉の 用材	デイサイト 質軽石	赤城山産出の軽石であるが、近くの荒砥川より持ち込まれたものと思われる。明瞭な加工痕は認められない。

6号住居址出土遺物 (第22・23図、P L 26)

土 器

(単位: cm)

番号	器 形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 ・ 文 様 の 特 徴	備 考
1	深 鉢	口 46.3 底 8.7 高 59.7	炉埋設	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③淡黄色④完形		口縁が内湾ぎみに開口し、胴部の括れをもたない器形。口縁近くで輪積痕に沿って二つに分割されるが、その接合面にはヘラ状工具による刻目が施される。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせ、これに接続させるように平行状の微隆起帯を垂下させる。区画内にはLR縄文を充填するが、胴部下位には施文されない。	加E4式
2	深 鉢	口(49.5)	床面直上	①軽石、粗・細砂混入 ②良好③暗灰・灰白色④口縁～胴部下位1/4		口縁がわずかに内湾し、胴部で若干括れる器形。内外面ともに良好に研磨。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせ、これに接続してV字状と楕円状の区画文を交互に施す。区画内にはLR縄文が充填される。	
3	深 鉢	口 10.4	床面直上	①軽石、細砂混入②良好③灰白色④口縁～胴部中位		口縁が内湾し、胴部で括れるキャリパー状の器形で1個の橋状把手をもつ。内外面に煤状の炭化物が付着する。口唇下に1条の細沈線をもぐらせ、胴部上位に波状文を施す。胴部下位にはΩ状の区画文を施す。区画内にはLR縄文が充填される。	
4	深 鉢	口 13.1 底 6.5 高 21.1	床面直上	①軽石、細砂混入②良好③灰・灰白色④完形		口縁の内湾や胴部の括れが強いキャリパー状の器形。4単位の波状口縁を呈し、1個の波頂部に橋状把手をもつ。外面の口縁付近に煤状炭化物付着する。口唇下に1条の細沈線をもぐらせ、胴部上半にV字状や渦巻状の区画文、胴部下半にΩ状の区画文を施す。区画内にはLR縄文を充填し、縄文施文後の沈線のなぞりが行われている。	
5	浅 鉢	口 21.3 底 7.0 高 26.7	+13	①軽石、粗・細砂混入②良好③灰白色④完形		肩部に1対の橋状把手をもつ、いわゆる「両耳壺」と呼ばれる器形。文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて、橋状把手上端を連結するような微隆起帯をめぐらせる。その下位にアーチ状とJ字状の微隆起帯を配し、区画の内外にLR縄文を施文する。	
6	漏斗形土器	口 7.8 高 9.0	+13	①軽石、石英、粗砂混入②良好③灰白色④完形		円錐形を呈し、底部に焼成前の0.7cmの孔がある。胴部中位に1対の把手が付された痕跡が残る。文様を持たないが、内面に放射状のヘラ研磨がみられる。	

石 器

(単位：cm・g)

番号	器 種	大きさ・重量	出土状態	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴
7	石 核	長 5.7 幅 3.8 厚 3.1 重 90	埋没土中	黒色頁岩	石核形状は角柱状を呈する。上下両端部は平坦な剥離面からなる。この角柱状の稜部を打面とし、剥片剥離を行っている。作出された剥片の形状は、概して小型かつ不定形なものが多かったと思われる。
8	打製石斧	長 5.7 幅 4.7 厚 1.7 重 52	埋没土中	黒色頁岩	短冊形を呈する。頭部に自然面を残し、刃部は表→裏の順で加工される。刃部には刃こぼれ状の使用痕が認められ、両側縁のほぼ対称位置につぶれが認められる。
9	砥 石	長 (5.0) 幅 6.0 厚 1.0 重 (41)	床面直上	砂岩	扁平な河床礫を使用する。下半部を欠損する。片面にのみ、礫の長軸と同一方向の幅1～1.5cmの平坦な砥面が認められる。
10	凹 石	長 11.1 幅 8.5 厚 5.5 重 491	+3	輝石安山岩 (粗粒)	10・11ともに、表裏両面に集合打痕によるくぼみ穴を各2個有する。11は下端および上端近くの右側縁が欠損しているが、表裏両面と右側縁に磨面をもつ。
11	凹 石	長 11.5 幅 7.7 厚 4.2 重 (622)	+6.5	輝石安山岩 (粗粒)	
12	磨 石	長 10.9 幅 8.9 厚 5.9 重 764	+5	石英閃緑岩	卵形の河床礫を使用する。表裏両面に磨面をもつ。
13	磨 石	長 19.3 幅 15.1 厚 4.7 重 2008	+4.5	輝石安山岩 (粗粒)	扁平な河床礫を使用する。片面のみが磨耗しており、周縁には部分的に敲打痕が認められる。
14	石 皿	長 (19.2) 幅 (12.5) 厚 7.6 重 (2940)	+4.5	輝石安山岩 (粗粒)	表面の一部に煤状の炭化物が付着し、裏面には錐揉状のくぼみ穴が施されている。欠損品であるが、裏面のくぼみ穴は欠損前の加工である。
15	浮 子	長 (9.0) 幅 8.5 厚 3.5 重 (118)	+10	輝石安山岩	赤城山産出の軽石を素材として、全体を研磨して整形している。下部の約 $\frac{1}{3}$ を欠損している。
16	不 明	径 2.7 厚 0.4 重 5	埋没土中	黒色頁岩	碁石状の石製品であるが、表裏両面とも研磨されて整形されている。

7号住居址出土遺物 (第25・26図、P L 27)

土 器

(単位：cm)

番号	器 種	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	須恵器 高 杯	口 17.5 底 12.6 高 11.4	床面直上	①軽石粗粒・良好 ②還元③灰、自然釉④ほぼ完形	杯部は上下を稜線で区画。波状文を1条巡らし、2個の飾りつまみが対称につく。	ロクロ成形による横撫。脚部は杯部に接合の後、篋で6方透しを外から切り取る。杯部つまみは粘土紐貼付。	脚部は稜線で区画し、上段1・下段2条波状文が巡る。
2	土師器 杯	口 14.0 高 5.6	カマド前 床面直上	①赤色粘土粒・軽石粗粒②酸化③赤橙④ $\frac{1}{2}$	内斜口辺の杯。口辺部は短かく、外反する。器高は口径の $\frac{1}{2}$ を呈す。器肉均一。	口辺部篋状工具使用横撫。 外面 底面手持ち篋削り。 内面 篋撫の後、放射状篋研磨。	
3	土師器 杯	口 12.7 底 4.3 高 5.6	床面直上	①軽石・黒雲母細粗粒②酸化③にぶい褐④完形	素縁口辺の杯。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 強を呈す。底部は口径の $\frac{1}{2}$ 弱の直径で扁平。	口辺部篋状工具使用横撫。 外面 体部篋削りの後篋磨き、底部篋調成。内面 篋撫、放射状篋研磨。	内面全体いぶし状態で煤付着。
4	土師器 杯	口 12.4 高 6.0	貯蔵穴内	①黒雲母細粒②酸化、良好③浅黄橙④ほぼ完形	素縁口辺の杯。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、体部は丸く底部は中央で僅かに扁平さみ。	外面 口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ で沈線1条で区画横撫。体部←篋削り後、篋磨き。底部篋削り。内面 篋撫、研磨。	外面、粘土紐巻き上げ痕、幅1.0。
5	土師器 杯	口 13.6 高 5.8	床面直上	①黒雲母細、軽石粗粒②酸化③にぶい褐	素縁口辺の杯。器高の口径の $\frac{1}{2}$ 弱、2～4ほぼ同様。底部は口径 $\frac{1}{2}$ 弱で扁平さみ。	外面 口辺部篋横撫。体部←篋削り、篋磨き。底部篋調整。 内面 横方向篋撫。	④ほぼ完形 外底部を除き内外面煤付着。二次焼成。

番号	器種	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調 ④残存	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
6	土師器 杯	口 12.0 底 4.0 高 6.1	床面直上	①黒雲母細、砂粗粒②酸化、良好③橙④完形		素縁口辺の杯。口辺部は最大径から僅か内湾。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、底部は厚く扁平。	口辺部横撫。 外面 体部篋磨き、底部篋削り調整。 内面 篋撫。	内面輪状に煤付着。外面に粘土紐輪積痕、幅1.5。
7	土師器 杯	口 14.7 高 3.7	カマド焚口 +39	①黒雲母・軽石・砂粗粒②酸化、良好③浅黄橙		素縁口辺で短かく直立。器高は口径の $\frac{1}{4}$ 強。底部は厚い。体部は粘土紐幅1.6cm。	外面 口辺部横撫、体部指頭圧痕、底部手持ち篋削り。 内面 口辺部横撫、底面指撫。	④完形 灯明皿か、内面はいぶし状煤付着。
8	土師器 杯	口 13.2 底 3.5 高 6.1	カマド前	①軽石・黒雲母・砂粗粒②酸化③浅黄橙④完形		口辺部は短かく内湾。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 弱。底部は平底状を呈する。	外面 口辺部横撫。体部指頭圧痕、体部へ篋削り、底部指頭圧。 内面 口辺部横撫、体部へ篋撫。	外面粘土紐接合痕あり、幅1.5。内面いぶし状黒色。
9	土師器 杯	口 12.8 底 3.6 高 5.9	床面直上	①軽石・黒雲母細粗粒②酸化③淡黄④ほぼ完形		器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、底部は平底状。口辺部は内面に稜をもち短かく内湾ぎみに外反。	外面 口辺部横撫。体部篋削りの後横方向篋磨き。底部篋磨き。 内面 横方向撫の後、放射状篋研磨。	外面体部へ底部黒斑。
10	土師器 杯	口 11.6 高 5.2	+20	①軽石・黒雲母・砂粗粒②酸化③橙④完形		器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、底部は丸底で歪む。口辺部は内面に稜をもち短かく外反。	口辺部は篋による横撫。 外面 体部指頭圧痕、底部篋削り。 内面 指頭圧痕、篋撫。	内面の口辺へ体部煤付着。外面に直径5cmの黒斑。
11	土師器 壺	口 (19.0)	床面直上	①軽石・砂粗粒②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$		口縁部は長さの $\frac{1}{2}$ まで折り返し口縁を呈す。	外面 横撫、指頭圧痕。 内面 横撫。	
12	土師器 甌	底 5.7	カマド前 床面直上	①軽石・黒雲母・細粗粒②酸化		底部は平底、底径の $\frac{1}{2}$ 強の円孔2.0cmを穿つ。	外面 体部へ篋削り、底部篋削り。 内面 指撫。底部篋削り、円孔篋切。	③明赤褐④胴下部 外面底部二次焼成。
13	土師器 甌	口 16.2 頸 13.5 胴 24.2	カマド前 床面直上	①軽石・石英・砂粗粒②酸化③浅黄橙④上半部		なだらかな肩から口縁部は「く」の字状に外反する。器肉は口縁部が厚い。	口縁部横撫。 外面 撫の後、刷毛目。 内面 へ篋削り・篋磨き。	
14	土師器 甌	胴 19.9 底 7.0	カマド前 +10	①黒雲母細、軽石・砂粗粒②酸化、良好③橙		底部は平底だが安定しない。胴部はふくらむ。器肉は胴部でほぼ一定、底部が厚い。	外面 胴部へ刷毛目、へ篋削り、篋磨き。底部篋削り。 内面 へ篋撫、へ篋削り、底部篋撫。	④下半部 底部外面は二次焼成で黒色。
15	土師器 甌	胴 22.0 底 6.6	カマド前 +10	①軽石・黒雲母・砂細～礫粒		14と同様だが、底部は中央が僅かに凹み安定する。	外面 胴部へ刷毛目、へ篋削り・篋磨き。内面 へ刷毛目。	②酸化③橙④下半部 内面底部黒斑。

8号住居址出土遺物 (第28・29図、P L 27)

土 器

(単位：cm)

番号	器種	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調 ④残存	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	口 13.4 底 11.7 高 4.1	床面直上 埋没土中	①軽石・黒雲母・石英・砂粗粒②酸化③にぶい橙		外稜の広がりが口辺の杯。底部は丸底だがやや扁平。器高は口径の $\frac{1}{2}$	口辺部は横撫。 外面 底部手持ち篋削り。 内面 篋撫。	④ほぼ完形
2	土師器 杯	口 (15.8) 底 (12.6) 高 2.9	埋没土中	①砂・赤色粘土・黒雲母粗粒②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$ 弱		外稜を呈し口辺中央で更に大きく外反。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 強、底部は大きく丸底だが扁平さみ。器肉は薄い。	口辺部は横撫。 外面 底部手持ち篋削り。 内面 底部指頭圧痕、横撫。中央に植物埋没の繊維の凹が残る。	外面底部に墨書、「井」?
3	土師器 杯	口 13.8 高 2.8	埋没土中	①軽石・黒雲母細、砂粗粒②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$		篋による横撫で口辺部は僅かに稜を呈し外反する。器高は低く、底部はやや扁平。	外面 口辺部篋による横撫、体部指撫、底部手持ち篋削り。 内面 指頭圧痕、篋による横撫。	器形は歪みがある。
4	土師器 杯	口 14.2 高 2.9	埋没土中	①軽石・黒雲母・粗粒②酸化		器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ 、底部はやや扁平。	外面 口辺部横撫。底部篋削り。 内面 指頭圧痕、篋横撫。	③にぶい橙④ $\frac{1}{2}$

番号	器種 器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
5	土師器 杯	口 14.0 高 (3.2)	埋没土中	①黒雲母細粒② 酸化③にぶい橙		器高は口径の $\frac{1}{3}$ 、口辺部は 器高の $\frac{1}{3}$ 強。口唇部内湾。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 指頭圧痕、篋横撫。	④ $\frac{1}{2}$ 弱 底部扁平ぎみ丸底。
6	土師器 杯	口 14.1 高 (3.4)	埋没土中	①黒雲母・軽石 細粒②酸化		器高、口辺部は5と同様。 口唇部は僅かに外反。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 篋横撫。	③にぶい橙④ $\frac{1}{3}$ 底部5と同様。
7	土師器 杯	口 16.3 高 4.5	埋没土中	①黒雲母粗粒 ②酸化、やや軟 質③橙④ $\frac{1}{2}$		器高は口径の $\frac{1}{3}$ 強、口辺は 器高の $\frac{1}{3}$ で短かく内湾ぎみ。 底部は稜を呈し扁平丸底。	外面 口辺部横撫、体部指頭圧痕、 底部手持ち篋削り。 内面 口辺部横撫、指押え、篋撫。	
8	須恵器 杯	口 13.1 底 9.2 高 4.0	埋没土中	①精選良好②選 元、軟質③灰白 ④ $\frac{2}{3}$		平底。器高は底径の $\frac{1}{2}$ 、安 定する。	ロクロ成形による成形。外面底部は ○回転糸切り。内面はロクロ目によ る稜を呈す。	
9	土師器 長 甕	口 (16.2) 頸 (14.7)	埋没土中	①軽石・黒雲母 細粒②酸化③橙 ④ $\frac{1}{3}$		「コ」の字状口縁の長甕。 器肉は胴部で薄い。	口縁部篋による横撫。 外面 一篋削り。 内面 篋撫。	
10	土師器 甕	口 (22.8) 頸 (19.5)	埋没土中	①軽石・黒雲母 細粒②酸化③淡 橙④ $\frac{1}{3}$		口縁部は頸部から外反す る。肩部はなだらか、器肉 は薄い。	口縁部篋による横撫。 外面 一篋削り。 内面 一篋撫。	内面口縁部に煤付 着。

石 器

番号	器種	大きさ・重量	出土状態	石質	形状・調整加工の特徴
11	こも編み 石	長 13.8 幅 6.3 厚 4.8 重 520	床面直上	石英閃緑岩	11～14は棒状の河床礫を用いている。加工痕は認められないが、体部は全 体的に滑らかである。11の下端には、わずかな敲打痕が認められる。
12	こも編み 石	長 12.3 幅 6.0 厚 3.1 重 341	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	
13	こも編み 石	長 13.2 幅 3.1 厚 2.0 重 123	+11	黒色頁岩	
14	こも編み 石	長 13.6 幅 6.3 厚 3.8 重 506	+3.5	輝石安山岩 (粗粒)	
15	敲 石	長 (6.7) 幅 7.8 厚 3.2 重 (267)	床面直上	石英閃緑岩	15は扁平な河床礫を、16は球形に近い河床礫を使用する。15は下端縁辺に 敲打痕が、16は2箇所に敲打痕がそれぞれ認められる。
16	敲 石	長 11.1 幅 9.6 厚 9.0 重 1152	床面直上	輝石安山岩 (粗粒)	

9号住居址出土遺物 (第31図、P L 28)

土 器

番号	器種 器形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	口 13.1 高 3.8	+10	①黒雲母・砂細 粒②酸化③淡橙		口辺部は器高の $\frac{1}{3}$ 弱で短か い。底部扁平ぎみの丸底。	口辺部横撫 外面 指撫、底部篋削り。 内面 指押え、指撫、篋による横撫。	④完形 口辺部は楕円形。
2	土師器 杯	口 13.5 高 3.4	埋没土中	①黒雲母細粒② 酸化③淡橙		口辺部の短かい杯。底部は 稜を呈す。1より更に扁平。	口辺部横撫 外面 指撫、底部篋削り。 内面 指頭圧痕、篋による横撫。	④ほぼ完形
3	土師器 杯	口 13.1 高 3.8	埋没土中	①黒雲母細粒② 酸化③淡橙④ $\frac{1}{3}$		口辺部は器高の $\frac{1}{3}$ 、底部は 丸底。	口辺部横撫 外面 指撫、底部篋削り。 内面 指による横撫。	

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
4	土師器 杯	口 13.5 高 3.5	埋没土中	①軽石・黒雲母・ 砂粗粒②酸化		3とほぼ同様。口辺部は器 高の $\frac{1}{2}$ 強。丸底で稜を呈す。	口辺部横撫。外面 指撫、底部篋削。 内面 指押え、横撫。	②軟質③橙④ほぼ 完形
5	須恵器 杯	口 11.4 高 3.6	+3 埋没土中	①軽石粗粒②還元 ③灰白④ $\frac{1}{2}$		平底。器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、底 径の $\frac{1}{2}$ 、口辺部は外反する。	ロクロ成形による横撫、ロクロ目有。 底部篋削り整形、周辺→2段篋削り。	

10号住居址出土遺物 (第32図)

土 器

(単位：cm)

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 甌	口 (17.6) 底孔 (1.3) 高 (12.3)	カマド内 +12	①黒雲母・軽 石・石英・砂粗 粒②酸化③淡橙		口辺部は外反し、最大径を 呈す。底部は焼成前の穿孔 がある小形の甌。	口辺部篋状工具による横撫。 外面 \、篋削り。 内面 →篋撫、底部指撫。	④ $\frac{1}{2}$ 口辺～胴上部 に黒斑あり。図面 上復元。

11号住居址出土遺物 (第34図、P L 28)

土 器

(単位：cm)

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	口 (13.0) 高 (2.3)	床面直上	①黒雲母細、粘 土粗粒②酸化		口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ で短く外 反。底部は中央が扁平さみ。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 口辺部横撫、底部篋撫。	③橙④ $\frac{1}{2}$
2	土師器 杯	口 (13.0) 高 (2.5)	床面直上	①軽石・砂粗粒 ②酸化、軟質		口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ で外反、 底部は丸底だが扁平さみ。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 口辺部横撫、指頭圧痕、指撫。	③橙④ $\frac{1}{2}$
3	土師器 杯	口 12.5 高 3.3	+3 埋没土中	①砂細粒②酸化 ③浅黄橙④ $\frac{1}{2}$ 弱		口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ 、直立さ みに立ち上がり口唇部外反。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 指頭圧痕、口辺部横撫、指撫。	口唇部が歪む。外 面底部黒斑。
4	土師器 杯	口 (15.4) 高 (3.2)	床面直上	①黒雲母細、軽 石細粒②酸化		底部は扁平さみの丸底。口 辺部は器高の $\frac{1}{2}$ 大きく外反。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 口辺部内面篋撫、底部篋撫。	③淡橙④ $\frac{1}{2}$
5	土師器 椀	口 (16.7)	+4	①軽石細、砂粗 粒。水漉し粘土。		体部は丸みをもち外反、口 唇部で内湾。器肉体下部厚。	外面 横方向篋磨き。 内面 放射状篋研磨。	②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$
6	須恵器 杯	口 13.2 高 3.9	床面直上	①良好、砂少量 ②還元、軟質		底部中央やや凹状の平底。 器高は口径の $\frac{1}{2}$ 、底径の $\frac{1}{2}$	ロクロ成形によるロクロ目痕。外面 底部○回転糸切り。	③灰白④ $\frac{1}{2}$
7	土師器 甕	口 (19.0) 頸 (15.6)	床面直上 カマド内	①軽石粗粒②酸 化③浅黄橙④ $\frac{1}{2}$		肩部は張りをもつ。口縁部 は大きく外反し口唇で外反。	口縁部横撫。外面 肩部篋撫。 内面 横方向篋撫。	外面 炭素吸着。
8	土師器 甕	口 (19.0) 頸 (17.0)	床面直上 カマド内	①軽石・砂細粒 ②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$		最大径は、外反する口縁部 にある。器肉は薄い。	外面 口辺部横撫、肩部→篋削り。 内面 口辺部横撫、肩部→篋撫。	
9	土師器 甕	口 (24.6) 頸 (21.7)	床面直上 カマド内	①軽石・黒雲母・ 砂細粒②酸化		肩部は大きく張る。口縁部 は外反、口唇部は内湾。	外面 口縁部横撫、肩部→篋削り。 内面 口縁部横撫、肩部横方向篋撫。	③橙④ $\frac{1}{2}$
10	土師器 長甕	口 (23.0)	床面直上	①軽石・砂粗粒 ②酸化、軟質		口縁部は直線的な胴部から 外反、最大径を呈す。	外面 口縁部横撫の後、胴部↑篋削り。 内面 口縁部横撫、胴部→篋撫。	③橙④ $\frac{1}{2}$
11	土師器 長甕	底 (5.2)	床面直上 カマド内	①砂細粒②酸化 ③橙④ $\frac{1}{2}$		長甕の胴下～底部。胴部器 肉は薄く、底部は厚みある。	外面 \、篋削り、底部篋削り。 内面 篋撫。	
12	土師器 長甕	底 4.2	床面直上	①軽石・砂細粒 ②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$		11と同様。器肉は底部中央 がやや薄い。	外面 \、篋削り。底部中央砂多く付 着、篋削り。内面 指撫、篋撫。	

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
13	土師器 甕	底 7.0	床面直上	①軽石・黒雲母 ②酸化③橙 ④残存		丸底。胴部はふくらんで外反。器肉は底・胴接合部厚。	外面 胴部へ筒削り、底部手持ち筒削り。内面 筒撫。	④ $\frac{3}{4}$

コ字状区画の溝状遺構出土遺物 (第36図、P L 28)

土 器

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 土製甗	口 18.2	A・B溝内	①黒雲母細、軽石・石英粗粒②酸化③黄橙④ほぼ完形		釜孔は二口、体部左右に角状把手を持つ。焚口欠損。体背面径5cmの煙孔を穿つ。	外面 口辺部横撫。胴部へ筒削り、筒幅2.0cm整形。内面 口辺部横撫。胴部筒撫。	③明黄褐④ $\frac{1}{4}$ 図面上復元。

1号方形周溝墓出土遺物 (第39・42・43図、P L 28・29)

土 器

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 器台	口 8.3 裾 11.0 高 8.9	東周溝部 +49	①石英粗粒少量②酸化③浅黄橙④ほぼ完形		器受部短かく口唇部は外反、底部は7mmの貫通孔。脚部裾広がる。中位に円孔。	外面 器受口辺・底部筒磨き、脚部縦筒磨。内面 口辺筒磨き底部放射状筒磨、脚部へ筒削り、刷毛目。	円孔直径1~1.2cm中位よりやや上に3個穿つ。
2	土師器 器台	口 8.2 脚頸 2.6 裾 10.9 高 10.2	東周溝部 +15	①軽石・石英・砂細粒②酸化③淡橙④ほぼ完形		器受部は1と同様。但し底部貫通しない。脚は外反するが裾部は直線的に折れ先端をつまみ出す。中位円孔。	外面 器受口辺・底部横撫、頸部筒削り、脚部縦筒磨、裾部横撫。内面 器受部横撫、脚部へ刷毛目、裾部横撫。	円孔は中位に上下二段各4個を交互に穿つ。直径1.0。器受部内外赤彩。
3	土師器 器台	口 18.6 脚頸 3.5 裾 10.6 高 13.0	東周溝部 床面直上	①軽石・砂細粒②酸化③橙④ほぼ完形		底部焼成前の円孔を穿つ。口辺部は「く」の字状に大きく外反。頸部は細く脚部は外反し裾大きく広がる。	外面 杯部縦方向筒磨、脚部筒撫、裾部縦方向筒磨。内面 杯部口辺部全面放射状筒磨、脚部へ筒撫、裾部横撫。円孔・貫通孔は筒で穿つ。	口辺4個、対で体部4個、脚部3個直径1.3の円孔。杯底部貫通孔0.8。
4	土師器 高杯	口 24.8 裾 14.5 高 14.5	東周溝部 +26	①砂細、赤色粘土粗粒②酸化③浅黄橙④完形		杯部は器高の $\frac{1}{2}$ 、円錐状に開く脚部に対し口径が大きい。脚部は円孔を穿つ。	外面 放射状筒磨。脚部へ筒削り。内面 杯部放射状筒磨。脚部絞り痕、筒撫、横撫。	脚部中位に焼成前の円孔を3個穿つ。径1.6。
5	土師器 碗	口 8.2 底 3.9 高 6.7	東周溝部 +16	①砂・軽石粗粒②酸化、やや軟質③浅黄橙		口辺部はS字状で短かく外反。最大径は器高中位にある。底部は平底で器高の $\frac{1}{2}$	口辺部横撫。外面 体部へ後へ、刷毛目。底部筒削り。内面 体へ底部へ指撫、指頭圧痕。	④ほぼ完形
6	土師器 碗	口 9.2 底 4.0 高 6.6	東周溝部 +21	①軽石・砂細、石英粗粒②酸化③浅黄橙④完形		口辺部は直立。最大径は器の $\frac{2}{3}$ の高さに位置。底部は平底。	口辺部横撫。外面 筒磨き、筒磨。内面 指頭圧痕、筒撫、筒磨。	
7	土師器 壺	口 18.6 頸 11.5	南周溝部 +64	①黒雲母・軽石細、石英粗粒		口縁部は長く、外反する。口唇部有段口唇部を呈す。	内外面とも横撫。頸部は接合部が観察出来る。	②酸化③にぶい橙④ $\frac{1}{4}$
8	土師器 壺	口 19.8 底 8.3 高 20.9	南周溝部 +14	①砂・黒雲母粗粒②酸化、良好③浅黄橙④完形		平底に直径6cmの孔を穿つ。器高の $\frac{1}{3}$ に最大径を有する胴部は球体。二重口縁。	外面 口縁中位くし状工具の刺突が巡る。↑、へへ刷毛目。内面 へ刷毛目、筒撫、へ刷毛目。	外面全体と内面口縁部は赤彩。外面胴下部に黒斑。
9	土師器 壺	口 20.6 底 8.4 高 19.0	西周溝部 +51	①黒雲母細、砂粗粒②酸化③浅黄橙④ほぼ完形		底部穿孔の壺、最大径は口縁部にある。口縁部は上段に比べ下段が長い。	外面 口縁の $\frac{2}{3}$ に稜を有し細かい刺突が巡る。↑、へへ刷毛目。内面 へ刷毛目、筒撫、へ刷毛目。	粘土紐は胴上部幅1.5・下部2.0。後に口縁下部接合。

コ字状区画の溝状遺構出土遺物 1・4号方形周溝墓出土遺物

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
10	土師器 壺	口 21.0 頸 7.2 胴 18.0	西周溝部 +48	①黒雲母・砂細 粒②酸化③浅黄 橙④ $\frac{1}{2}$		底部は15まで同様。最大径は口縁部にある。口縁中央は粘土紐貼付で突出する。	外面 口縁 $\frac{1}{2}$ に稜を有し、指頭圧痕を巡る。ゝ、ゝ、ゝ刷毛目。一篋削り。内面 一刷毛目、指頭圧痕。	胴部は器高の $\frac{1}{2}$ にあり、胴部高の $\frac{1}{2}$ で球体。
11	土師器 壺	口 21.6 底 8.8 高 19.9	東周溝部 +64	①砂・石英粗粒 ②酸化③浅黄橙 ④ほぼ完形		最大径は口縁部にある。口縁中位は $\frac{1}{2}$ に粘土紐貼付で僅か突出。胴部器肉は均一。	外面 口縁突出部指押え巡らす。ゝ、ゝ、ゝ刷毛目・一篋削り・ゝ刷毛目。内面 一刷毛目、指押え・一篋撫。	外面は口縁〜胴中位、内面口縁部に赤彩。
12	土師器 壺	口 20.7 底 7.6 高 21.5	西周溝部 +51	①砂・石英粗粒 ②酸化③浅黄橙 ④ $\frac{1}{2}$		最大径は口径・胴径に呈す。胴部は球体、口縁部は $\frac{1}{2}$ に粘土紐貼付で厚みを有す。	外面 ゝ、ゝ、ゝ刷毛目。内面 一刷毛目、指押え・一篋撫・一刷毛目。	胴部成形粘土紐は幅1.5。
13	土師器 壺	口 17.6 底 8.2 高 19.2	東周溝部 +29	①砂細粗、石英粗粒②酸化③浅黄橙④ほぼ完形		最大径は胴下部にある。胴部は腰に張りをもつ。口縁有段部に細い粘土紐貼付。	外面 口縁・頸へ、胴へ一刷毛目。内面 口縁上段横撫・下段〜頸刷毛目、胴指押え・一篋撫・一刷毛目。	胴部粘土紐幅1.6。
14	土師器 壺	口 21.1 底 7.8 高 (21.5)	東周溝部 +45	①黒雲母細、石英・軽石・砂粗粒②酸化		12とほぼ同様の器形を呈す。口縁部は楕円を呈す。	外面 口縁横撫・ゝ、頸へ、一刷毛目。内面 口縁一、胴へ篋削り・ゝ刷毛目。	③浅黄橙④肩〜胴中央欠損。内外口縁部赤彩。
15	土師器 壺	口 17.1 底 5.9 高 16.3	東周溝部 +65	①黒雲母細、石英・砂粗粒②酸化③浅黄橙		8〜14に比べ小形。底部直径5cmの孔を穿つ。口縁上段は外反で内湾さみ。	外面 口縁部横撫、胴部へ一刷毛目、胴下部ノ篋削り。内面 口縁部横撫、胴部指押・篋撫。	④口縁 $\frac{1}{2}$ 、他完存
16	土師器 壺	口 22.2 胴 30.0 底 11.4 高 44.3	東周溝部 +12	①石英・砂・軽石・黒雲母粗粒②酸化、良好③淡橙④ほぼ完形		二重口縁、頸部つまみ出し。口縁上段棒状紐・肩部円形粘土各3貼付。胴部球体、底部平底。	外面 口縁上段一・下段一刷毛目、胴一刷毛目・ゝ磨き。内面 口縁部一刷毛目、胴部指押え・篋撫。	外面口縁〜胴中央・内面口縁部赤彩。

4号方形周溝墓出土遺物 (第48図、P L 30)

鉄製品・土 器

(単位：cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	鉄製品 鎌	棟長(15.0) 刃部(11.6) 身幅 4.2 背厚 0.3	溝内土壇 +3	④先端欠損		背および刃部が、くちばし状に湾曲していることから、曲刃鎌と思われる。わずかにではあるが、身の湾曲が認められる。断面形が楔形を呈し、刃は片刃である。身の基端には、高さ5mmの折り返しの耳が付く。		
2	土師器 罎	口 12.2 胴 14.0	南周溝部 埋没土中	①黒雲母・石英・砂細粗粒②酸化		口縁部は長く中位に浅い沈線一条巡る。最大径は胴部。	外面 口縁横撫、胴横撫・一篋削り。内面 口縁横撫、胴指押え・一篋撫。	③淡橙④ $\frac{1}{2}$ 、底部欠損。
3	土師器 罎	口 8.0 頸 5.0	北周溝部	①黒雲母・軽石・砂細粒②酸化③橙④口縁部		口縁部は「く」の字状に外反、下部は丸み。器肉は薄い。	外面 口縁部横撫・縦方向篋研磨。内面 口縁部横撫・縦方向篋研磨。	内外面口縁部赤彩。
4	土師器 甕	口 18.0	埋没土中	①黒雲母・砂細粒②酸化③橙		口縁部は「く」の字状、内湾しながら外反。	外面 口縁部横撫。内面 口縁部横撫、縦方向篋研磨。	④ $\frac{1}{2}$
5	土師器 壺	口 16.2 高 21.9	南周溝部 埋没土中	①軽石・赤色粘土細粒②酸化		口縁部は口唇部が内湾さみで外反。底部平底。	器面が磨滅して整形痕不明瞭。外面 篋磨き。内面 不明瞭。	③明赤褐④ほぼ完形
6	土師器 台付甕	胴 21.9	北周溝部 埋没土中	①黒雲母細、砂・軽石・石英粗粒		最大径は胴中位にある。底部はやや小さい。	外面 胴部へ篋削り。内面 胴上部指押え、下部篋撫。	②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$
7	土師器 台付甕	裾 9.0	埋没土中	①黒雲母・軽石・砂細粒②酸化		比較的大形の台部、内面裾部に折り返しがみられる。	外面 撫、上部刷毛目。内面 指撫・横撫・指押え。	③浅黄橙④台部

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
8	土師器 台付壺	幅 9.2	西周溝部 +8	①軽石・黒雲母・ 砂細粒②酸化	7と同様。	7と同様。7・8は、内側天井部に 砂の多い粘土を貼り込む。	③浅黄橙④台部
9	土師器 壺	底 9.0	東周溝部 埋没土中	①軽石細粒②酸 化③明赤褐④ $\frac{1}{2}$	胴部は球体に近い。底部は 凸底。	外面 篋削り。 内面 篋撫。	外面胴部に黒斑。

1号墳出土遺物 (第51図、P L 30)

土 器

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	口 (13.1) 高 3.5	前庭	①黒雲母細、軽 石粗粒②酸化	内湾ぎみに短い口辺部が立 ちあがる小形の杯。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 口辺部横撫、底部撫。	③橙④ $\frac{1}{2}$
2	土師器 杯	口 (14.9) 高 3.9	南西周堀 埋没土中	①黒雲母細、砂・ 軽石粗粒②酸化	外稜の広がり口辺の杯。底 部は扁平。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 口辺部横撫、底部撫。	③にぶい褐④ $\frac{1}{2}$ 外面煤吸着。
3	須恵器 杯	底 6.9	南西周堀 埋没土中	①砂細粒②還元・ 軟質③灰白④ $\frac{1}{2}$	平底の杯、中央部は僅かに 凹状。	ロクロ成形の稜残る横撫。	

土坑出土遺物 (第57図、P L 30)

土 器

番号	器形	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
3坑1	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③鈍い橙色	器形は、口縁の内湾や胴部の括れの強いもの(3・4・6~8)と弱いもの(1・2・5・9)がある。1は内面に、4は内外面に煤状炭化物が付着する。 文様は、半截竹管による太い沈線で平行状の懸垂文を構成するもの(1~3)、微隆起帯に近似した隆帯で渦巻文を構成するもの(4・5)、棒状工具による細沈線でV字状文を構成するもの(6~8)、微隆起帯によって文様構成するもの(9)がある。各文様の区画内には縄文が充填されるが、1~6は縄文施文後に区画文のなぞりが行われる。縄文は、1~4・9がRL、5がLRL、6~8がLRとなる。	加 E 3 式
3坑2	深 鉢		埋没土中	①軽石、石英・粗砂混入②良好③淡黄色		
3坑3	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③黄灰色		
3坑4	深 鉢		埋没土中	①細砂混入②良好③灰黄色		
3坑5	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③灰黄褐色		
3坑6	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③淡赤橙色		
3坑7	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③浅黄橙色		
3坑8	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③浅黄色		
3坑9	深 鉢		埋没土中	①粗砂、礫混入②良好③淡黄色		
4坑1	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③淡黄・灰色	口縁が直立ぎみに開口し、胴部で括れない器形。口縁に微隆起帯をめぐらせ、その下位にLR縄文を施文する。	加 E 4 式
4坑2	深 鉢		埋没土中	①石英、粗砂混入②良好③淡黄色		
5坑1	深 鉢	口 (40)	埋没土中	①礫・粗砂混入②良好③灰黄色④口縁~胴部中位 $\frac{1}{2}$	1の器形は、口縁がわずかに内湾し、胴部で括れないが、2は胴部で括れるキャリパー状の器形。1は外面に煤状炭化物が付着。文様は、1が口縁に微隆起帯をめぐらせてLR縄文を施文し、2は口唇下に太い沈線をめぐらせてRL縄文を施文する。	加 E 4 式 加 E 3 式
5坑2	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③浅黄色		
5坑3	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③浅黄色		
6坑1	深 鉢		埋没土中	①礫・粗砂混入②良好③鈍い橙色	朝顔状の器形。1は内面、2は外面に煤状炭化物付着。RL縄文施文後に半截竹管による集合沈線文を胴部上半に施文する。	諸磯 b 式
6坑2	深 鉢		埋没土中	①粗砂混入②良好③灰白・灰色		

遺構外の出土遺物 (第60・62~80図、P L 30~34)

縄文土器

(単位: cm)

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
1	深鉢		c-16	①粗砂混入②良好③橙色	1~25は尖底の器形をもつ草創期後半の燃糸文系土器である。1~8は口縁部破片で、口唇部は角頭状を呈するもの(1)や丸棒状となるもの(2~8)があり、いずれも肥厚外反する。6・7・16は器内が薄い。焼成はいずれも良好であるが、胎土に石英礫を含むもの(2・6・8・12・13・15・17・18・22)や結晶片岩礫を含むもの(7・16・19・21・25)などがみられる。 文様は燃糸文をもつものを主体として、絡状体を回転施文させずに引きずって糸線状の沈線文を施すもの(5・23・24)や無文のもの(6~8・25)がある。 燃糸文の施文は、口唇上にも施文するもの(1)、口唇下より施文するもの(2・3)、口縁部無文帯を意識したもの(4)などがある。5の糸線文土器は口唇下より施文されている。 燃糸文の原体は、2のみがLで他は全てRである。原体の節が大きく、条間隔の狭いもの(1・2・9・11・17)、節が小さく条間隔の狭いもの(3・12~14・16)、節が大きく条間隔の広いもの(4・18~22)などがみられる。	夏島式
2	深鉢		b-18	①石英礫、粗砂混入②普通③褐灰色		稲荷台式
3	深鉢		表採	①粗砂混入②良好③鈍い橙色		
4	深鉢		表採	①粗・細砂混入②良好③鈍い橙色		
5	深鉢		L-17	①粗・細砂混入②良好③鈍い橙色		
6	深鉢		J'-67	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い橙色		
7	深鉢		H-17	①結晶片岩礫混入②良好③鈍い赤褐色		
8	深鉢		D'-55	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い黄橙色		
9	深鉢		K-17	①粗砂混入②良好③鈍い橙色		
10	深鉢		J'-67	①粗砂混入②良好③鈍い橙色		
11	深鉢		c-16 Z-5	①粗砂混入②良好③鈍い橙色		
12	深鉢		表採	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い赤褐色		
13	深鉢		表採	①石英礫混入②良好③鈍い黄褐色		
14	深鉢		W-11	①粗砂混入②良好③鈍い橙色		
15	深鉢		K-17	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い橙色		
16	深鉢		Z-1	①結晶片岩礫混入②良好③鈍い橙色		
17	深鉢		表採	①石英粗砂混入②良好③鈍い黄褐色		
18	深鉢		c-14	①石英礫、粗砂混入②普通③灰黄褐色		
19	深鉢		b-18	①結晶片岩礫混入②良好③鈍い橙色		
20	深鉢		b-18	①頁岩礫、粗砂混入②良好③鈍い黄褐色		
21	深鉢		P-9	①結晶片岩礫混入②良好③橙色		
22	深鉢		b-18	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い黄褐色		
23	深鉢		P-9	①礫・粗砂混入②良好③鈍い橙色		
24	深鉢		表採	①礫・粗砂混入②良好③鈍い橙色		
25	深鉢		P-9	①結晶片岩礫混入②良好③鈍い赤褐色		
26	深鉢		b-18	①粗砂、繊維混入②良好③浅黄褐色	26~38は胎土に繊維を含む。26~29・31・32の口唇部は角頭状を呈し、外反する。全体的な器形の判明しているものはないが、26にみられるような口縁が外反して胴上位でゆるく括れ、その下位で膨らみをもつ器形となる	黒浜式
27	深鉢		K-75	①粗砂、繊維混入②良好③鈍い赤褐色		
28	深鉢		b-18	①結晶片岩礫・繊維混入②良好③明赤褐色		

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
29	深鉢		表採	①粗砂、繊維混入②良好③浅黄橙色	<p>ものが大半と推定される。36・38は外面にスス状炭化物が付着している。</p> <p>文様は、全面に縄文を施文するもの(26~33・35・36)と半截竹管による沈線文をもつもの(34・37・38)がある。</p> <p>26は軸縄が見えないが、RおよびL縄を各2本附加した2種の原体を施文することによって、菱形の文様を描出している。27・31~34はRL、29はR、28・30は同一個体でL、35はRLとLの2種類、36はRLとLRの2種類の原体をそれぞれ使用する。</p> <p>37は半截竹管によってコンパス文が描かれている。</p>	黒浜式
30	深鉢		K-14	①結晶片岩礫・繊維混入②良好③明赤褐色		
31	深鉢		表採	①軽石、石英、繊維混入②良好③灰黄褐色		
32	深鉢		表採	①礫・粗砂、繊維混入②良好③鈍い橙色		
33	深鉢		b-18	①軽石、粗砂、繊維混入②良好③橙色		
34	深鉢		表採	①細砂、繊維混入②良好③鈍い橙色		
35	深鉢		G-1・16	①軽石、粗砂・繊維混入②良好③灰黄褐色		
36	深鉢		表採	①粗砂、繊維混入②良好③鈍い橙色		
37	深鉢		表採	①粗砂、繊維混入②良好③灰黄褐色		
38	深鉢		D'-55	①粗砂、繊維混入②普通③灰黄褐色		
39	深鉢		表採	①礫・粗砂混入②良好③褐灰色	<p>39・40は器形がキャリバー状に屈曲し、41~45は口縁が外反して胴部中位でわずかに屈曲する器形となる。</p> <p>文様は、39・40が浮線文、41~43が半截竹管による沈線文、44・45がRL縄文によってそれぞれ構成される。43は菱形の文様の内側に渦巻文が施文され、41はRL縄文を施文した後に沈線文が施文される。</p>	諸磯b式
40	深鉢		表採	①礫・粗砂混入②良好③鈍い褐色		
41	深鉢		表採	①軽石、礫・粗砂混入②良好③鈍い赤褐色		
42	深鉢		a-70	①軽石、礫混入②良好③鈍い赤褐色		
43	深鉢		g-44	①礫・粗砂混入②良好③淡黄色		
44	深鉢		b-18	①石英礫、粗砂混入②良好③鈍い黄橙色		
45	深鉢		表採	①細砂混入②良好③鈍い黄橙色		
46	深鉢		K-13	①石英礫、細砂混入②良好③浅黄橙色	<p>半截竹管による集合沈線で文様構成される。46は円形貼付文に半截竹管の刺突が加えられる。</p>	諸磯c式
47	深鉢		V-9	①粗砂混入②良好③淡黄色		
48	深鉢	口(17.5)	G~I-13	①粗砂混入②良好③鈍い赤褐色	<p>キャリバー形の器形。胴部上半に半截竹管による波状文、下半にΠ状文が施され、区画内にRL縄文が充填される。</p>	加E3式
49	深鉢	口(46.5)	Q-7 P-6	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄橙・灰色④口縁 $\frac{1}{2}$	<p>口縁の湾曲、胴部の括れが弱い器形・外面に煤状炭化物付着。口縁に微隆起帯をめぐらせ、以下にLR縄文を施文する。</p>	加E4式
50	深鉢	口(22)	K-7	①粗砂混入②良好③鈍い黄橙色④口縁 $\frac{1}{2}$	<p>口縁が強く内湾するキャリバー状の器形。50は1個の橋状把手をもち、51は波状口縁を呈する。文様は、ともに細沈線によるV字状。楕円状文が施文されるが、50は口縁に微隆起帯がめぐる。50は区画内にLR縄文、51はRL縄文が充填される。</p>	
51	深鉢	口(11)	Q-5	①粗砂混入②良好③鈍い黄橙色④口縁 $\frac{1}{2}$		
52	深鉢	口(20)	L-9・11	①粗砂混入②良好③鈍い橙色④口縁 $\frac{1}{2}$	<p>外面に煤状炭水化物が付着。口縁の突起部分に橋状把手が付く。口縁に微隆起帯をめぐらせ、以下にLR縄文を施文する。</p>	
53	深鉢	口(18)	R-7	①粗砂混入②良好③鈍い黄橙色④口縁 $\frac{1}{2}$	<p>口唇下に指頭による幅広い沈線文をめぐらせ、以下5~6本単位の条線文を施文。</p>	加E3式

遺構外の出土遺物

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
54	浅鉢	口(28)	F~L-4~7	①軽石、粗砂混入②良好③灰白色④口縁~胴部下位1/4	肩部に1対の把手をもつ「両耳壺」。把手に連結する微隆起帯のアーチ状文を施文した後に、RL縄文をほぼ全面に施文する。	加E4式
55	深鉢	口15.6 底(8.0) 高(23)	S-29	①礫・粗砂混入②良好③浅黄橙・褐灰色④口縁~胴部下位1/4	3単位の波状口縁で、各波頂部に小突起を付す。朝顔状の器形。口縁には細い隆帯を貼付して、棒状工具による刺突を加える。その下位に平行状の沈線をめぐらせ、区画内にLR縄文を充填する。	堀之内2式
56	深鉢		L-11	①軽石、粗砂混入②良好③褐灰色	56~62は口縁が内湾し、胴部で括れるキャリパー状の器形を呈する。56は外面にタール状炭化物、60は内面に煤状炭化物がそれぞれ付着する。文様は、口唇下に半截竹管によるやや幅広い沈線をめぐらせ、胴部にU字状・平行状・U字状の沈線区画文を垂下させる。区画内あるいは外側に縄文が充填され、縄文施文後に沈線のなぞりが行われる。縄文は56・58~60がRL、57・62が0段3条RL、61がLRである。	加E3式
57	深鉢		N・O-12	①軽石、細砂混入②良好③淡黄色		
58	深鉢		N・P-12	①軽石、細砂混入②良好③淡黄色		
59	深鉢		U-8	①軽石、粗砂混入②良好③灰色		
60	深鉢		e-76	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄色		
61	深鉢		O-5	①軽石、礫・粗砂混入②良好③浅黄橙色		
62	深鉢		J-9	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄橙色		
63	深鉢		H-17 I-12	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄橙・灰色		
64	深鉢		R-9	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄色		
65	深鉢		L-12	①軽石、粗砂混入②良好③灰白色		
66	深鉢		G-12	①軽石、粗砂混入②良好③鈍い黄橙色	63~67は口縁が内湾し、胴部で括れるキャリパー状の器形を呈する。66は外面に煤状炭化物が付着する。 断面D字状の隆帯によって、渦巻状の文様が構成される。1本単位の隆帯(66・67)と2本単位の隆帯(63~65)があり、RL縄文が充填されるが、縄文施文後に隆帯両側になぞりが加えられる。	
67	深鉢		O-12	①軽石、粗砂混入②良好③鈍い黄橙色		
68	浅鉢		N・P-12	①粗砂混入②良好③灰白色		
69	浅鉢		L-5	①軽石、粗砂混入②良好③灰黄色		
70	浅鉢		G-9	①軽石、粗砂混入②良好③灰白色		
71	深鉢		J-14	①軽石、粗砂混入②良好③淡黄・灰色		
72	深鉢		表採	①粗砂混入②良好③鈍い黄橙色		
73	深鉢		U-8	①粗砂混入②良好③淡黄色		
74	浅鉢		I-12	①粗砂混入②良好③灰黄色		
75	深鉢		A・J-3 J・O-6	①粗砂混入②良好③淡黄・灰色		
76	深鉢		L-5	①粗・細砂混入②良好③黄灰色		
77	深鉢		S-9	①細砂混入②良好③淡黄色		
78	深鉢		Q-6・7	①礫・粗砂混入②良好③浅黄・黄灰色		
79	深鉢		L-6	①細砂混入②良好③淡黄・黄灰色		
80	深鉢		U・R-7 Y-8	①細砂混入②良好③淡黄色		
					4単位の波状口縁を呈し、口縁の内湾するキャリパー状の器形となる。口唇下に微隆起帯をめぐらせるもの(75・77・78)と細沈線をめぐらせるもの(76)がある。76・77は口唇下に2列の円形刺突文、75・78は微隆起帯下に1列の刺突をもつ。細沈線でV字状を描き、区画内に縄文を充填。76は0段3条RL、77はRL、78はLR。	加E4式
					79~89口縁が内湾し、胴部中位で括れるキャリパー状の器形を呈する。79・80・83は波状口縁をもち、79・80は波頂部に1個の橋	加E3式

荒砥北原遺跡

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
81	深鉢		I-2	①軽石、細砂混入②良好③淡黄色	状把手が付く。83は波頂下に瘤状の小突起が付く。79は内面に、81・83は内外面に、82・87は外面にそれぞれ煤状炭化物が付着する。	
82	深鉢		J-9	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄・灰色		
83	深鉢		K-7	①礫・粗砂混入②良好③灰黄褐色	文様は棒状工具を施文具とした細沈線によって構成される。胴部上半にV字状と楕円状の文様が交互に施文されるもの(80・83・87)とV字状文のみが施文されるもの(79・81・85・88・89)の他に、口縁から胴部下位にかけて∩状文を垂下させるもの(82)もある。79・82~84は、口唇下に一条の沈線をめぐらせるが、80・82は微隆起帯をめぐらせる。各文様の区画内には縄文が充填される。79・80・82・86・89はLR、81・85・88はRL、83・84・87は0段3条RLである。 口縁が直立ぎみに開口し、胴部で括れないもの(90~92・94・98)と、口縁が内湾して胴部中位で若干括れるもの(93・95・96・97)とがある。95は外面に、96は内面に煤状炭化物が付着する。91は口唇下に、両面穿孔による径8mmの補修孔がみられる。98は器面の風化が著しい。 文様は、口唇下に幅広い無文帯をおいて1条の微隆起帯をめぐらせるが、その下位にV字状・∩状の微隆起帯文を交互に配するもの(90・93・95)と、平行状の微隆起帯を垂下させるもの(91・92・94・98)とがある。93は横位と∩状の微隆起帯の接点に瘤状の小突起が付される。区画内には縄文が充填されるが、97のRLを除いて、全てがLR縄文である。 口唇下に無文帯をおいて1条の細沈線をめぐらせ、小さな橋状把手を付す。以下にLR縄文を施文する。	加E 4式
84	深鉢		Q-8	①粗砂混入②良好③灰白色		
85	深鉢		U-8	①細砂混入②良好③灰白色		
86	深鉢		V-4	①石英礫、粗砂混入②良好③灰黄色		
87	深鉢		表採	①細砂混入②良好③浅黄色		
88	深鉢		J-6	①細砂混入②良好③鈍い黄橙色		
89	深鉢		Q-6	①粗砂混入②良好③淡黄色		
90	深鉢		表採	①細砂混入②良好③灰白色		
91	深鉢		L-8	①細砂混入②良好③浅黄・灰色		
92	深鉢		L-8	①細砂混入②良好③灰色		
93	深鉢		U-8	①粗砂混入②良好③鈍い黄橙・灰黄色		
94	深鉢		K-7	①軽石、粗砂混入②良好③浅黄色		
95	深鉢		J-12	①粗砂混入②良好③淡黄色		
96	深鉢		U-8	①細砂混入②良好③浅黄色		
97	深鉢		U-8	①粗砂混入②良好③浅黄色		
98	深鉢		Q-6・7	①礫・粗砂混入②良好③淡黄色		
99	深鉢		R-7	①石英、粗砂混入②良好③鈍い黄橙色	口唇下に無文帯をおいて1条の細沈線をめぐらせ、小さな橋状把手を付す。以下にLR縄文を施文する。	
100	深鉢		R-7	①軽石、細砂混入②良好③灰黄色	細沈線によりJ字状文を施し、区画内にLR縄文を充填する。	称名寺I式
101	深鉢		表採	①粗砂混入②良好③淡黄色	細沈線により8の字状の文様を描く。	堀之内1式
102	把手		Q-6・7	①粗砂混入②良好③淡黄色	鳥類か両生類の頭部を模した把手である。	称名寺I式
103	把手		表採	①粗砂混入②良好③灰白色	両生類を模した把手である。	加E 4式
104	漏斗形土器		b-18	①粗砂混入②良好③灰白色	6住のNa6と同様の土器であり、底部に孔をもつと推定される。外面はヘラ研磨され、タール状の炭化物が付着する。	
105	深鉢	底(5.0)	表採	①粗砂混入②良好③灰白色	107・108は平坦な底部であるが、105は上げ底状を呈する。文様は105が7本歯の櫛歯状工具により条線文が施される。106・107は半截竹管による平行懸垂文が施され、区画内にRL縄文が充填される。	加E 3式
106	深鉢	底(7.0)	K-5	①粗砂混入②良好③灰白色		
107	深鉢	底(6.0)	L-6	①粗砂混入②良好③鈍い黄橙色		

遺構外の出土遺物

番号	器形	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・文様の特徴	備考
108	深鉢	底(8.0)	表採	①粗砂混入②良好③鈍い黄橙色	108~116は胴部下位から底部にかけての破片で、無文となっている。底部の成形は、粘土を円板状にして、その上面に胴部の粘土を積み上げるものが主体となるが、109のように、円板の側面に胴部の粘土を貼付するものもみられる。115は支脚状の小さな底部をもち、116は高台状の底部となる。 110は内側に煤状の炭化物が付着している。	加E3式
109	深鉢	底(7.5)	表採	①礫・粗砂混入②良好③鈍い黄橙色		
110	深鉢	底(7.0)	K-7	①粗砂混入②良好③淡黄色		
111	深鉢	底(5.5)	Q-7	①粗砂混入②良好③淡黄色		
112	深鉢	底(7.0)	L-10	①軽石・粗砂混入②良好③浅黄色		
113	深鉢	底(6.5)	L-16	①粗砂混入②良好③灰白色		
114	深鉢	底(4.0)	Q-6・7	①粗砂混入②良好③灰黄色		
115	深鉢	底(3.4)	G-9	①粗砂混入②良好③鈍い橙色		
116	深鉢	底(5.4)	G-1	①粗砂混入②良好③灰色		

弥生土器・土師器・その他

(単位: cm)

番号	器種	大きさ	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
117	弥生壺	頸(9.3) 胴(14.1)	U-79	①軽石・赤色粘土・砂粗粒②酸化③淡橙④1/2	胴部に最大径をもつ壺。器肉は均一。	粘土紐巻きあげ成形。 外面 篋磨き、先端丸い棒状工具で施文。内面 指押え、篋撫。	外面胴一部黒斑。 須和田式。
118	弥生深鉢	口(21.3)	表採	①砂・軽石・黒雲母粗粒②酸化③にぶい橙④1/2	底部から直線的に外反しながら立ちあがる。最大径は口縁部にあり、器肉は均一。	粘土紐巻きあげ成形。 外面 ↓篋撫、口唇部は指押え。 内面 →篋撫。	口辺に小さな突起が1箇所付く。弥生中期。
119	土師器杯	口(12.6)	L-6	①軽石・赤色粘土粗粒②酸化	口唇部が僅かに内湾する素縁口辺の杯。底部は丸底。	外面 口辺部横撫、底部篋削り・篋磨き。内面 横撫、放射状篋研磨。	③橙④1/4
120	土師器杯	口(13.5)	L-6	①軽石細粒、水澆し粘土②酸化	口辺部は短かく外反。最大径は底部にある。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 口辺部横撫、底部篋撫。	③橙④1/4
121	土師器杯	口(14.5)	L-6	①赤色粘土・砂・軽石粗粒	素縁口辺の杯。底部丸底。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 横撫、放射状篋研磨。	②酸化③橙④1/4
122	土師器杯	口(14.0)	L-6	①軽石細粒②酸化③橙④1/4	素縁口辺の杯。丸底。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 口辺部横撫、底部篋撫。	
123	土師器杯	口(14.1)	L-6	①黒雲母細粒②酸化③赤褐④1/4	口唇部は短かく、外反する。丸底。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 口辺部横撫、底部篋撫。	
124	土師器甕	口 15.4	L-6	①黒雲母・砂細粒②酸化③淡橙	口縁部は短く、「く」の字状に外反、接合部は器肉厚い。	外面 口縁横撫、胴篋削り・刷毛目・篋磨き。内面 口縁刷毛目、胴篋磨。	④1/4 粘土紐巻きあげ成形。
125	土師器甕	口(12.7)	L-6	①軽石細粒②酸化③にぶい橙	口縁部は短かく外反する。最大径は胴部にある。	内・外面 口縁部横撫、胴部指撫・横方向篋撫整形。	④1/4 外面に炭素吸着。
126	土師器壺	胴部破片	L-6	①黒雲母細粒、石英粗粒②酸化	肩部が大きく張り、くびれた頸部から口縁部は外反。	外面 縦・横篋磨き。 内面 縦方向篋磨き。	③浅黄橙④破片
127	土師器甕	底(6.0)	L-6	①黒雲母細粒、石英粗粒②酸化	平底、中央は器肉が薄い。	外面 胴部篋削り・篋磨き、底部篋削り。内面 器面剥離で整形不明。	③浅黄橙④1/4
128	土師器甕	底 7.5	L-6	①黒雲母・軽石・石英細粒	平底から、胴部は直線的に外反し立ちあがる。	外面 胴部へ篋削り、底部篋削り。内面 篋撫、刷毛目整形。	②酸化③浅黄橙④1/2弱

荒砥北原遺跡

番号	器 種	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
129	須恵器 蓋	つまみ2.9 口 13.6	表 採	①精選良好②還元③灰④%		つまみは小さく、中央が凹状、先端は丸い。器高低い。	ロクロ成形。ヨコナデ整形。	
130	古 銭	径 2.4	表 採	④完形		鑄造年代・1639～1668年(寛永16～寛文8年)		寛永通宝

石 器

(単位：cm・g)

番号	器 種	大 き さ ・ 重 量	出土位置	石 質	形 状 ・ 調 整 加 工 の 特 徴	摘 要
131	三角錐形 石器	長 125 幅 6.6 厚 5.9 重 588	E'-66	黒色頁岩	横断面が台形を呈し、裏・右側面に自然面を残す。左・右側面→表面→底面の順で加工され、表面中央部には大きな剥離が施されて抉れている。頭部に打痕が認められる。	131～139は礫(黒色頁岩)を素材として、整形加工を施し、三角錐および四角錐状の形態に仕上げられた石器である。体部の一面(裏面)に自然面を残すことが多い。石器の製作工程は、体部を加工した後に、複数回の剥離によって底面(スタンブ形石器の分割面に相当する)を作り出す。
132	三角錐形 石器	長12.0 幅 7.2 厚 3.7 重 315	C'-64	黒色頁岩	横断面が三角形に近い台形を呈し、表面と裏面の一部に自然面を残す。左・右側面→裏面→底面の順で加工され、体部の中央は左右両側面より大きな剥離が施されて抉れている。	側面の稜部には、連続した微細な加工痕が認められるが、その剥離方向は基本的に側面の整形加工方向と一致している。これらの微細な加工痕の中には、打製石斧にみられるようなつぶれと区別できないものも認められる。
133	三角錐形 石器	長12.6 幅 6.3 厚 5.3 重 430	D'-62	黒色頁岩	横断面が四角形を呈し、裏面と左側面に自然面を残す。右側面→表面→左側面→裏面→底面の順で加工される。表面の底部に近接した左右稜部は、敲打されてつぶれている。	底面の剥離面は磨滅せず新鮮であり、裏面と底面との角度は鋭角をなす。底面付近の体部周縁には、底面方向からの小剥離痕が若干認められるものもある。
134	三角錐形 石器	長14.1 幅 5.2 厚 5.8 重 516	C'-62	黒色頁岩	横断面が四角形を呈する。体部中央で二つに折れて別々の地点より出土したが、接合した。左・右側面、裏面の一部に自然面を残し、表面→左・右側面→裏面→底面の順に加工される。表面には大きな剥離が施され、抉れている。底面付近の表面左右稜部に、つぶれが認められる。	
135	三角錐形 石器	長 9.1 幅 5.8 厚 4.3 重 255	Y-65	黒色頁岩	横断面が台形を呈する。裏面に自然面を残し、表面→左・右側面→底面の順に加工される。左右両側面の剥離は表面および裏面方向から錯交的に施される。側縁稜部にはつぶれが認められる。	
136	三角錐形 石器	長(8.0) 幅 5.1 厚 5.0 重(288)	表 採	黒色頁岩	横断面が四角形を呈し、右側面・裏面と左側面の一部に自然面を残す。表面→左側面→底面の順で加工される。頭部から体部の約1/3を欠損している。	
137	三角錐形 石器	長 8.5 幅 5.6 厚 4.4 重 258	表 採	黒色頁岩	横断面が四角形を呈し、裏面に自然面を残す。右側面→表面→左側面→底面の順で加工される。	
138	三角錐形 石器	長(8.9) 幅 6.8 厚 5.0 重(362)	表 採	黒色頁岩	横断面が四角形を呈する。頭部を欠損し、左右側面と裏面に自然面を残す。表面の加工は左側縁→右側縁の順で行われる。裏面の左右稜部の一部に、敲打によるつぶれが認められる。	
139	三角錐形 石器	長 8.3 幅 6.4 厚 4.3 重 291	表 採	黒色頁岩	横断面が四角形を呈し、表面から左側面・裏面にかけて、自然面を残す。底面付近の右側縁稜部に、敲打によるつぶれが認められる。右側縁→底面の順に加工。	
140	三角錐形 石器	長10.6 幅 8.0 厚 3.9 重 442	表 採	黒色頁岩	左・右両側縁が抉入状に加工され、右側縁には敲打によるつぶれが認められる。底面の調整加工は、上縁から下縁に向けて行なわれている。	140～145は黒色頁岩の棒状礫を素材とした三角錐形石器である。側縁を抉入状に加工するものとしいないものとの両者が存在する。抉入状の側縁には微細な
141	三角錐形 石器	長10.7 幅 4.6 厚 6.3 重 357	A'-61	黒色頁岩	右側縁のみ抉入状に加工されるが、その稜部には若干のつぶれが認められる。底面の調整加工は、上縁から下縁に向けて行なわれている。	

遺構外の出土遺物

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	摘要
142	三角錐形石器	長 8.6 幅 4.2 厚 3.6 重 209	A'-67	黒色頁岩	左側縁のみ、挟入状に加工される。底面から体部にかけての約1/3を欠損している。頭部にはわずかに敲打痕が見られる。	調整加工とともに、その稜部をつぶすような加工痕も認められる。底面は複数回の剝離によって作出されるが、いずれの剝離面も磨滅することなく新鮮である。
143	三角錐形石器	長12.6 幅 7.2 厚 4.7 重 489	C'-65	黒色頁岩	左・右側縁は挟入状に加工されるが、右側縁の方が大きく抉れている。両側縁の稜部には、つぶれが認められる。底面は上端からの加撃によって作出された後に、下端に細かい剝離が施される。両側縁→底面の順に加工。	
144	三角錐形石器	長 9.5 幅 6.0 厚 4.2 重 297	表 採	黒色頁岩	側縁は加工されないが、底面は2回の大きな剝離によって作出される。	
145	三角錐形石器	長(6.3) 幅 5.9 厚 3.3 重(191)	C'-62	黒色頁岩	左側縁のみ加工されるが、下半部は欠損しているために不明である。	
146	スタンプ形石器	長11.4 幅 7.8 厚 4.1 重 592	A'-64	輝石安山岩(粗粒)	右側縁から頭部にかけて加工されるが、その稜部にはつぶれが認められる。分割面の上縁には、細かい剝離が施される。右側縁→分割面の順に加工される。	146~152は棒状および扁平な粗粒(輝石安山岩等)の河床礫を素材として、その一端を折り取るように分割し、平坦面を作り出す。側縁を挟入状に加工するものと、しないものの両者が認められる。また、挟入状の側縁には、その稜部をつぶすような加工も認められる。分割面は基本的に1回の加撃によって作出されるが、若干の細部調整を行うものもある。また分割面の周縁や突出部分が、磨耗している例も認められる。
147	スタンプ形石器	長11.7 幅10.9 厚 4.9 重 585	C'-63	変質安山岩	扁平な礫を素材として、右側縁にのみ挟入状の剝離を施す。稜部につぶれが認められる。底面は下端からの加撃により打割された後に、左縁を加工して形状修正されているが、面界線がやや突出して湾曲している。	
148	スタンプ形石器	長10.8 幅 8.3 厚 4.5 重 588	D'-62	輝石安山岩(粗粒)	左右両側縁を挟入状に加工し、更に側縁稜部を敲打によってつぶしている。頭部から表・裏面の中央部にかけて、敲打痕が認められる。分割面の突出部分は、磨耗し、分割面付近の体部周縁には不連続の小剝離痕が認められる。	
149	スタンプ形石器	長10.3 幅 6.4 厚 4.2 重 522	b-18	変質安山岩(粗粒)	両側面や表面に、火熱によると思われる剥落がある。右側縁に敲打痕が認められ、分割面は右縁が欠損している。	
150	スタンプ形石器	長13.2 幅 7.0 厚 5.1 重 686	Y-12	石英閃緑岩	裏面右稜部と、表面の頭部近くに敲打痕が認められる。分割面は1回の打撃により作出され、その周縁は磨耗している。分割面付近の体部周縁に、不連続の小剝離痕が認められる。	
151	スタンプ形石器	長10.6 幅 7.3 厚 3.4 重 389	A'-67	グラノファイヤー	頭部およびそれに近接した表・裏面に、敲打痕が認められる。分割面の右縁に小剝離痕が見られる。	
152	スタンプ形石器	長 9.5 幅 6.8 厚 3.5 重 369	b-18	黒色頁岩	分割面付近の表面には、分割面方向からの小剝離痕が認められる。	
153	敲石	長(8.8) 幅10.0 厚 2.6 重(413)	E'-65	黒色頁岩	扁平な河床礫を素材とする。右側面稜部には敲打痕が認められる。下半部は欠損している。	
154	有舌尖頭器	長(4.6) 幅 1.3 厚 0.3 重 214	表 採	黒色頁岩	基部および先端部を欠損するが、細身の有舌尖頭器と思われる。表・裏面ともに押圧剝離によって加工されている。	
155	石鏃	長 1.9 幅 1.2 厚 0.3 重 0.8	表 採	チャート	凹基無茎鏃である。基部を除いた表・裏面に、微細な剝離を施す。	
156	石鏃	長(2.6) 幅 2.1 厚 0.4 重 1.6	表 採	黒色頁岩	凹基無茎鏃である。先端部および右側縁の返し部を欠損する。裏面に第一次剝離面を残し、表面に比べて裏面の加工は粗い。	
157	石鏃	長(2.7) 幅 1.6 厚 0.3 重 1.0	表 採	流紋岩(?)	凹基無茎鏃である。先端部を欠損する。表面の側縁には微細な剝離が施されるが、裏面はやや粗い。	

荒砥北原遺跡

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	摘要
158	石鏃	長(2.8) 幅 1.9 厚 0.5 重 1.7	K-11	黒色頁岩	平基有茎鏃である。茎部が欠損する。やや厚みのある鏃で表・裏面に微細な押圧剥離が施される。	
159	石匙	長(6.1) 幅 3.2 厚 1.0 重 (20)	R-7	黒色頁岩	縦型である。つまみ部分および先端部が欠損する。表→裏の順で加工される。	
160	石匙	長(2.8) 幅 2.8 厚 0.8 重 (7)	表 採	黒色頁岩	横型である。つまみ部および刃部が欠損する。表→裏の順で加工される。	
161	楔形石器	長 3.6 幅 2.2 厚 0.8 重 8	Q-6・7	黒色安山岩	161～164は、不定形の剥片を素材として、上下両端に両極剥離痕をもつものである。161～163は縦長剥片を、164は横長剥片をそれぞれ素材としている。	
162	楔形石器	長 3.0 幅 3.0 厚 0.8 重 7	Q-7	黒色安山岩		
163	楔形石器	長 4.0 幅 3.5 厚 0.7 重 13	Q-6・7	黒色安山岩		
164	楔形石器	長 3.5 幅 4.2 厚 0.8 重 12	L-12	黒色安山岩		
165	削器	長 4.7 幅 3.2 厚 1.1 重 19	Q-6・7	黒色安山岩	165～170は、平面形が木葉形を呈し、小型でやや厚みのある石器である。不定形な剥片を素材とするが、裏面のバルブを除去するような加工を行うとともに、表裏両面に刃部調整とも思える求心的な剥離を施す。 165～167は裏面にやや細かい剥離が施され、166の下縁には刃こぼれ状の使用痕が認められる。170は表・裏面の周縁に微細な剥離を施す。165は表→裏、166～170は裏→表の順に加工される。	
166	削器	長 4.5 幅 3.2 厚 1.3 重 20	Q-6・7	黒色安山岩		
167	削器	長 3.8 幅 3.0 厚 1.4 重 13	Q-6・7	黒色安山岩		
168	削器	長 4.0 幅 3.2 厚 1.4 重 19	Q-6・7	黒色安山岩		
169	削器	長 3.5 幅 3.1 厚 0.8 重 (11)	Q-6・7	黒色安山岩		
170	削器	長 2.2 幅 1.7 厚 0.4 重 1	C'-62	チャート		
171	削器	長 2.4 幅 3.3 厚 0.6 重 4	Q-6・7	黒色安山岩	横長剥片を素材とする。表・裏面の周縁に細かい剥離が施され、裏→表の順で加工される。	171～192は不定形な剥片を素材として、裏面のバルブを主に表面からの剥離によって除去し、側縁に調整加工を施すものである。そのほとんどが裏→表の順に加工されている。
172	削器	長 2.9 幅 4.0 厚 1.1 重 9	Q-6・7	黒色安山岩	横長剥片を素材とする。下縁の刃部に刃こぼれ状の使用痕が認められる。裏→表の順に加工される。	
173	削器	長 2.8 幅 3.5 厚 0.9 重 (7)	Q-5	黒色安山岩	横長剥片を素材とする。刃部は粗い剥離によって作出され、左下縁が欠損する。裏→表の順に加工される。	
174	削器	長 3.0 幅 2.5 厚 0.8 重 5	Q-6・7	黒色安山岩	縦長剥片を素材とする。右側縁の一部をわずかに加工し、左側縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
175	削器	長 3.5 幅 3.5 厚 1.0 重 10	F-2	黒色安山岩	素材は横長剥片。周縁に刃部調整をほとんど施さないが、左側縁の一部に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
176	削器	長 2.7 幅 4.3 厚 0.9 重 9	Y-8	黒色安山岩	横長剥片を素材とする。下縁が欠損。裏面のバルブを裏面からの剥離で折り取るように除去する。	
177	削器	長 3.9 幅 6.1 厚 0.9 重 26	Q-6・7	黒色安山岩	横長の剥片を素材とする。下縁には表面からの細かい剥離が施され、刃こぼれ状の使用痕が認められる。	

遺構外の出土遺物

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	摘要
178	削器	長 3.8 幅 4.8 厚 1.0 重 19	Q-6・7	黒色安山岩	横長の剥片を素材とする。裏面の上・下縁辺に細かい剥離が施される。	
179	削器	長 4.4 幅 5.4 厚 1.4 重 31	Q-6・7	黒色安山岩	裏面のバルブを裏→表へ向かって折り取るように剥離される。裏面の周縁にやや粗い加工が施される。	
180	削器	長 4.3 幅 4.5 厚 1.4 重 30	Q-6・7	黒色安山岩	横長の剥片を素材とする。下縁に裏面からの細かい剥離が施される。	
181	削器	長 4.0 幅 3.3 厚 1.0 重 13	Q-6・7	黒色安山岩	縦長の剥片を素材とする。表面の下縁から右側縁にかけて、やや粗い剥離を施す。	
182	削器	長 3.6 幅 3.4 厚 0.9 重 12	Q-7	黒色安山岩	縦長の剥片を素材とする。表面に粗い剥離を施し、下縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
183	削器	長 4.3 幅 4.0 厚 0.8 重 12	Q-6・7	黒色安山岩	縦長の剥片を素材とする。左側縁に裏面からの細かい剥離を施す。	
184	削器	長 5.1 幅 4.9 厚 1.4 重 30	Q-7	黒色安山岩	三角形の剥片を素材とする。表面に粗い剥離を施す。	
185	削器	長 5.2 幅 4.0 厚 0.8 重 16	Q-6・7	黒色安山岩	縦長の剥片を素材とする。裏面のバルブを裏→表への剥離で折り取るように除去する。	
186	削器	長 5.7 幅 3.7 厚 1.2 重 (24)	Q-6・7	黒色安山岩	縦長剥片を素材とする。右側縁を欠損。表面を中心にやや粗い剥離を施す。下縁・左側縁に使用痕が認められる。	
187	削器	長 7.0 幅 4.4 厚 1.2 重 49	z-63	黒色頁岩	縦長の剥片を素材とする。表面は粗い求心的な整形加工が施され、左側縁には細かい剥離が認められる。周縁には、刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
188	削器	長 7.8 幅 6.3 厚 1.7 重 101	H-10	黒色頁岩	縦長の剥片を素材とする。裏面からの剥離によって、裏面のバルブを折り取るように除去する。	
189	削器	長 6.8 幅 6.3 厚 2.2 重 72	H-2	黒色頁岩	横長剥片を素材とし、表面に自然面を残す。下縁に表面から細かい剥離を施し、右側縁から下縁にかけて刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
190	削器	長 5.7 幅 4.0 厚 0.9 重 26	P-4	黒色安山岩	縦長の剥片を素材とする。左右の側縁に細かい剥離を施す。	
191	削器	長 4.7 幅 6.6 厚 1.5 重 49	Q-6・7	黒色頁岩	横長剥片を素材とし、表面に自然面を残す。下縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
192	削器	長 4.0 幅 7.4 厚 1.3 重 34	表採	黒色頁岩	横長の剥片を素材とする。表裏に第1次剥離面を残し、周縁に粗い調整加工が施される。	
193	削器	長 5.3 幅 8.3 厚 2.2 重 119	S-18	黒色頁岩	表裏両面に剥離を施した後、上・下端を折り取っている。左側縁は表→裏、右側縁は裏→表の順に加工され、右側縁には微細な剥離が施されている。	
194	削器	長 3.0 幅 7.6 厚 2.8 重 48	G-16	黒色頁岩	表面に自然面を残し、周縁に細かい剥離が施される。右側縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。	194～198は、不定形剥片を素材として、一端を折り取った後に、折断面を除いた周縁に調整加工を施したものである。
195	削器	長 3.7 幅 5.7 厚 1.3 重 33	表採	黒色頁岩	表面を中心に細かい剥離が施され、右側縁から下縁にかけて刃こぼれ状の使用痕が認められる。	
196	削器	長 5.0 幅 5.6 厚 0.6 重 18	O-8	黒色頁岩	下縁に裏→表への細かい剥離を施すが、同部位には刃こぼれ状の使用痕も認められる。	

荒砥北原遺跡

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	摘要	
197	削器	長 5.8 幅 5.1 厚 0.9 重 32	b-18	黒色頁岩	表面に自然面を残す。下縁の一部に表面からの細かい剥離が施され刃こぼれ状の使用が認められる。	199～201は、不定形の縦長剥片を素材として、裏面のバルブを除去せずに側縁に細かい調整加工を施すものである。	
198	削器	長 7.1 幅 6.8 厚 1.5 重 85	L-5	黒色頁岩	表面に自然面を残す。下縁から右側縁にかけて、表面からの細かい剥離が施される。		
199	削器	長 4.5 幅 4.8 厚 1.5 重 (36)	F-18	黒色頁岩	右側縁に裏→表への粗い剥離を施す。左側縁に刃こぼれ状の使用痕が認められる。下端を欠損する。		
200	削器	長 4.1 幅 3.1 厚 1.5 重 15	S-9	黒色頁岩	左右両側縁に細かい剥離が施されるが、右側縁は裏→表、左側縁は表→裏の順で加工される。		
201	削器	長 9.4 幅 7.8 厚 2.1 重 168	D'-51	黒色頁岩	表面に自然面を残す。左右両側縁には、細かい片面調整が施される。		
202	礫器	長 6.2 幅 8.8 厚 2.4 重 145	表 採	黒色頁岩	楕円形状の扁平な自然石を素材として、表面を中心に剥離を施す。刃部は粗い剥離で作出され、刃こぼれ状の使用痕が認められる。	203～213は不定形剥片を素材とするが、その周縁にほとんど調整加工を施さないものであり、刃こぼれ状の使用痕が認められる。 203・204・207・209・210・212は表面に自然面を残す。211～213は一側縁を折り取り、その折断部分を機能部としている。213の表面には、火熱による剝落が認められる。	
203	使用痕ある剥片	長 5.9 幅 7.6 厚 1.2 重 65	表 採	黒色頁岩			
204	使用痕ある剥片	長 7.7 幅 6.2 厚 1.1 重 56	b-18	黒色頁岩			
205	使用痕ある剥片	長 5.5 幅 6.9 厚 0.8 重 30	表 採	黒色頁岩			
206	使用痕ある剥片	長 3.1 幅 6.9 厚 1.7 重 21	I-9	黒色頁岩			
207	使用痕ある剥片	長10.1 幅 4.6 厚 0.8 重 41	表 採	黒色頁岩			
208	使用痕ある剥片	長 4.8 幅 3.2 厚 0.7 重 13	c-76	黒色頁岩			
209	使用痕ある剥片	長 7.1 幅 4.6 厚 1.0 重 37	L-11	黒色頁岩			
210	使用痕ある剥片	長 5.5 幅 4.9 厚 0.8 重 24	P-6	灰色安山岩			
211	使用痕ある剥片	長 4.5 幅 4.4 厚 0.8 重 23	Q-6・7	黒色安山岩			
212	使用痕ある剥片	長 6.5 幅 4.9 厚 1.8 重 53	H-10	珩質安山岩 (黒色頁岩)			
213	使用痕ある剥片	長10.3 幅 5.2 厚 1.9 重 91	K-13	黒色頁岩			
214	礫器	長17.9 幅 8.5 厚 4.8 重1198	A'-65	灰色安山岩	細長い河床礫を粗材として、体部下半にのみ粗い剥離を施す。刃部の剥離面には、磨耗痕が認められる。表→裏の順に加工される。		
215	打製石斧	長15.5 幅12.3 厚 3.0 重 842	表 採	黒色頁岩	短冊形。扁平な礫を素材として、主に裏面を加工する。表面の両側縁中央に、抉入状の剥離を施す。		

遺構外の出土遺物

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	摘要
216	打製石斧	長13.7 幅 5.6 厚 1.5 重 140	J-4 K-14	黒色頁岩	短冊形。体部中央で二つに折れて、別々の地点より出土したが、接合した。刃部から体部中央にかけて、縦方向の磨耗痕が認められ、頭部付近の両側縁につぶれが認められる。	216~231は表・裏面の両側縁に、連続した微細な剝離が施された打製石斧である。頭部や刃部付近の側縁および両側縁の稜部に、つぶし状の加工を施したのも認められる。
217	打製石斧	長10.6 幅 4.3 厚 1.6 重 105	H-13	輝石安山岩 (細粒)	短冊形。刃部はわずかに磨滅し、その付近の両側縁につぶれが認められる。表→裏の順に加工される。	
218	打製石斧	長11.3 幅 4.8 厚 1.3 重 103	C'-66	黒色頁岩	短冊形。表面に自然面を残す。刃部に刃こぼれ状の使用痕をもつ。頭部および刃部付近の両側縁につぶれが認められる。左側縁は表→裏、右側縁は裏→表の順に加工。	
219	打製石斧	長12.0 幅 4.7 厚 1.5 重 104	表 採	黒色頁岩	短冊形。表面の一部に自然面を残す。刃部から体部中央にかけて、縦方向の磨耗痕が認められる。また、頭部付近の両側縁につぶれが認められる。	
220	打製石斧	長10.6 幅 5.3 厚 1.3 重 65	Q-5	黒色頁岩	短冊形。表面の一部に自然面を残す。刃部にわずかな刃こぼれ状の使用痕が、また、頭部付近の右側縁につぶれが認められる。裏→表の順に加工される。	
221	打製石斧	長(5.5) 幅 4.0 厚 1.0 重 (49)	I-12	灰色安山岩	短冊形。表面に自然面を残し、体部上半を欠損する。刃部はわずかに磨滅し、両側縁につぶれが認められる。	
222	打製石斧	長(5.0) 幅 5.6 厚 1.5 重 (46)	L-6	灰褐色安山岩	短冊形。表面に自然面を残し、体部上半を欠損する。刃部から体部にかけて磨滅し、右側縁にはつぶれが認められる。左側縁は表→裏、右側縁は裏→表の順に加工。	
223	打製石斧	長(6.8) 幅 3.7 厚 1.2 重 (31)	b-18	黒色頁岩	短冊形。表面に自然面を残す。頭部と体部下半を欠損する。左側縁は表→裏、右側縁は裏→表の順に加工される。	
224	打製石斧	長13.4 幅 6.5 厚 3.6 重 338	b-18	黒色頁岩	短冊形。細長い隙を素材として、片面を中心に粗い剝離を施すが、左側縁はほとんど加工されない。	
225	打製石斧	長11.9 幅 5.0 厚 1.4 重 105	O-6	黒色頁岩	短冊形。表面に自然面を残し、体部は反りをもつ。刃部の一部が欠損する。刃部から体部中央にかけて磨滅しているが、表面はとくに著しい。	
226	打製石斧	長(9.0) 幅 5.8 厚 1.3 重 (101)	S-9	黒色頁岩	短冊形。頭部を欠損する。刃部には使用による磨滅が認められる。左側縁は表→裏、右側縁は裏→表の順に加工。	
227	打製石斧	長 8.1 幅 4.5 厚 0.9 重 37	J-14	黒色頁岩	短冊形。刃部に刃こぼれ状の使用痕が、また刃部付近の右側縁につぶれが認められる。	
228	打製石斧	長(5.2) 幅(3.5) 厚 1.0 重 (23)	Q-6・7	黒色安山岩	短冊形。上半部および左半部を欠損する。刃部・右側縁部ともに裏面を中心に剝離が施される。	
229	打製石斧	長(9.5) 幅 7.4 厚 2.1 重 (199)	b-18	灰色安山岩	短冊形。横長剥片を素材とし表面に自然面を残す。刃部は細部調整加工されていないが、磨滅している。両側縁中央部につぶれが認められる。	
230	打製石斧	長(5.0) 幅 3.5 厚 0.8 重 (15)	P-4	黒色頁岩	短冊形。表面に自然面を残し、上半部および刃部を欠損する。	
231	打製石斧	長(4.2) 幅 5.2 厚 2.3 重 (48)	J-13	灰色安山岩	短冊形。刃部を残すのみで、他を欠損する。刃部は裏面の片面剝離によって作出され、若干磨滅している。	
232	打製石斧	長(11.5) 幅 8.0 厚 2.0 重 (268)	I-12 J-9	輝石安山岩 (細粒)	撥形。頭部および刃部付近で3つに折れている。両側縁の扶入部にはつぶれが認められる。	

荒砥北原遺跡

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴
233	打製石斧	長12.2 幅 7.3 厚 1.8 重 184	G-15	珪質頁岩	分銅形。表面に自然面を残し、上・下端の刃部は片面剥離によって作出される。両側縁の袂入部は磨滅しているが、つぶれは左側縁にのみ認められる。上・下端の刃部を中心に縦方向の磨耗痕が認められるが、特に表面は顕著である。
234	打製石斧	長11.2 幅 6.5 厚 1.6 重 138	F-16	黒色頁岩(有孔虫化石含有)	分銅形。表面に自然面を残す。刃部は裏面の片面剥離によって作出され、刃こぼれ状の使用痕や磨耗痕が認められる。袂入部にはつぶれとともに、幅約3cmの帯状の磨耗痕が認められる。
235	磨製石斧	長10.0 幅 3.6 厚 1.8 重 103	F'-67	黒色頁岩	細長い礫を素材として、表・裏面の先端を研磨し刃部を作出する局部磨製石斧である。刃部は欠損しているが、複数の研磨面で構成されている。研磨は、刃部に対していずれも左上りの斜位になされている。
236	磨製石斧	長(6.0) 幅(4.8) 厚 2.5 重(68)	G-16	変玄武岩	刃部を残すのみで、他を欠損する。全面に長軸に並行した研磨痕が認められ、裏面の刃部には縦方向の微細な線状痕が認められる。
237	凹石	長12.0 幅 9.8 厚 5.0 重 575	J-9	輝石安山岩(粗粒)	237~242は、楕円形状の河床礫を素材として、中央部に集合打痕によるくぼみ穴をもつ。237は片面、238・239は両面、240~242は両面および側面にそれぞれ複数個のくぼみ穴をもつ。241のくぼみ穴はスリ鉢状を呈している。239・240は先端部に敲打痕が認められ、また239は表・裏面に磨り面が認められる。
238	凹石	長11.6 幅 7.3 厚 4.9 重 363	R-7	輝石安山岩(粗粒)	
239	凹石	長12.2 幅 8.4 厚 6.7 重 999	表採	輝石安山岩(粗粒)	
240	凹石	長10.0 幅 7.5 厚 5.7 重 514	q-75	輝石安山岩(粗粒)	
241	凹石	長10.2 幅 8.0 厚 2.8 重 329	Q-7	輝石安山岩(粗粒)	
242	凹石	長10.6 幅 8.4 厚 4.8 重 473	n-76	輝石安山岩(粗粒)	
243	敲石	長 9.5 幅 7.3 厚 4.3 重(430)	表採	輝石安山岩(粗粒)	
244	敲石	長 8.0 幅 4.5 厚 2.5 重 118	H-17	輝石安山岩(粗粒)	
245	敲石	長12.7 幅 8.8 厚 3.0 重 518	L-9	輝石安山岩(粗粒)	
246	敲石	長12.1 幅 7.9 厚 4.8 重 685	M-10	輝石安山岩(粗粒)	
247	敲石	長 8.2 幅 6.7 厚 5.5 重 361	J-15	黒色頁岩	
248	敲石	長14.5 幅 6.6 厚 2.5 重 403	J-6	輝石安山岩(細粒)	
249	磨石	長11.8 幅 8.4 厚 3.8 重 555	H-12	輝石安山岩(粗粒)	249~253は、円形あるいは楕円形状の河床礫を素材として、片面および両面に磨り面をもつものである。250・251・253は両面に、249は片面に磨り面をもつ。252は裏面にかすかな斜位の擦痕が認められる。249・250は周縁に敲打痕が認められる。
250	磨石	長 9.2 幅 8.8 厚 5.3 重 536	表採	輝石安山岩(粗粒)	
251	磨石	長 8.5 幅 8.1 厚 3.8 重 379	表採	輝石安山岩(粗粒)	

遺構外の出土遺物

番号	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴
252	磨石	長11.7 幅 5.5 厚 2.2 重 229	b-18	灰色安山岩	
253	磨石	長 9.9 幅 8.9 厚 3.9 重 542	表採	石英閃緑岩	
254	多孔石	長21.0 幅17.0 厚10.5 重3800	表採	輝石安山岩 (粗粒)	立方体状の礫を素材として、その六面全てに錐揉み状の逆円錐形を呈したくぼみ穴が、多数施されている。くぼみ穴は錐揉み状のものが主体であるが、わずかに集合打痕によるものも見られる。
255	石棒	長(7.5) 幅 6.5 厚 4.5 重(373)	表採	石英閃緑岩	上下両端を欠損する。側面に敲打による加工痕を残し、器面全体は研磨されている。
256	装飾品?	長 9.7 幅 1.9 厚 0.8 重 24	b-18	流理のある 細粒の脈岩	研磨によって整形され、下端に斜位の研磨痕が残っている。下端にゆくにつれて幅広となり、下端近くの中央部に両面穿孔による孔があげられている。孔の周縁には、孔を木葉形状に広げるような加工も施されている。垂れ飾りの一種かと思われる。
257	紡錘車?	長3.35 幅3.35 厚1.25 重 6	C-18	角閃石安山 岩	表裏両面および周縁は研磨によって整形され、中央には径7mmの孔が表面より片面穿孔されている。

今井神社古墳群

1号墳出土遺物(第99図)

埴輪

(単位: cm)

番号	形態	残存部	大 き き		透孔(a×b)	突帯(c×d)	刷毛目	色調	胎土	焼成	粘土帯幅	備 考	
			口径・底径・器高	第1・第2	円筒部・その他								
1	A	胴部	—・—・(5.7)		—・—	0.6×0.2		12	橙	E	G.f	2.0	

土器

(単位: cm)

番号	器 種 形	大 き き	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成・整形の特徴	備 考
2	須恵器 中型甕	頸 26.0	周堀埋土	①軽石粗粒②還元、硬質③灰白④肩部 $\frac{1}{10}$ 。		肩部は、張りがあり丸みをおびる。頸部下に沈線巡る。器肉は0.8cm。	外面 横撫 内面 当目、横方向撫。	
3	土師器 高杯	脚頸 3.0	周堀埋土	①軽石・砂・赤色粘土粗粒②酸化③浅黄橙		脚部は円錐形を呈す。内面下部は粘土紐の接合痕残る。杯部嵌込式。	外面 ↑ 窺撫。 内面 紋り痕。↓ 指撫。	④脚部(裾欠損)
4	土師器 高杯	脚頸 3.5	周堀埋土	①黒雲母・石英・砂・軽石粗粒②酸化、良好		3と同様で内面下部は数段、粘土紐接合痕を1段残す。脚接合部は細い。	外面 ↑ 窺撫。 内面 紋り痕、上部一窺調整。	③浅黄橙④脚部(裾欠損)
5	土師器 高杯	脚頸 3.3	周堀埋土	①黒雲母・軽石粗粒②酸化、良好③浅黄橙		3・4と同様。脚接合部は細い。	外面 ↑ 窺撫。 内面 紋り痕。↓ 指撫。	④脚部破片
6	土師器 埴	頸 (6.4)	周堀埋土	①黒雲母・軽石粗粒②酸化③橙④ $\frac{1}{5}$ 。		口縁部は「く」の字状に外反。肩部に張りを呈す。器肉は0.75cm。	口縁部 内外面共に横方向指撫。 外面 ↓ 窺削り。 内面 指頭圧痕。	粘土紐幅1.6。
7	土師器 甕	底 (8.0)	周堀埋土	①石英・黒雲母粗粒、軽石礫粒②酸化、良好		底部は僅か凹底。胴中央部に張りを呈する。	外面 胴下部↑、底部稜一窺削り。底部指押え、窺撫。 内面 刷毛目。	③橙④底部 $\frac{1}{5}$ 。

2号墳出土遺物 (第105~116図、P L 42~46)

直刀・刀装具

(単位: cm)

番号	残存部	残存長	刃部	茎部	鍔	備 考
1	刃部	(24.4)	(24.4)	—	—	
2	刃～茎部	(10.5)	(2.1)	(8.4)	—	目釘穴1・目釘1・棟関・刃関
3	刃部	(16.3)	(16.3)	—	—	
4	〃	(6.3)	(6.3)	—	—	
5	刃～茎部	(3.9)	(2.4)	(1.5)	—	棟関・刃関
6	〃	(13.3)	(8.2)	(5.1)	3.5×2.0	目釘穴1・目釘1・棟関・刃関・鞘木部僅に残る。
7	〃	(11.0)	(0.8)	(10.2)	3.5×1.8	目釘穴1・目釘1・棟関・刃関・鞘木部僅に残る。
8	把縁	(3.9)×(3.0)	—	—	—	
9	両頭座金具?	2.6×0.4	—	—	—	

鉄 鍬

(単位：cm)

番号	名称	残存部	残存長	鍬身部			鍬被部			茎部			備考
				a	b	c	d	e	f	g	h	i	
10	有茎棘鍬被	柄～茎	4.9	—	—	—	(0.7)	—	—	(4.2)	0.3	0.4	
11	〃	〃	5.8	—	—	—	(5.3)	0.25	0.6	(0.4)	—	—	
12	〃	〃	7.5	—	—	—	(4.5)	0.4	0.5	(3.0)	0.2	0.2	
13	〃	〃	6.7	—	—	—	(5.8)	0.3	0.7	(0.9)	—	—	
14	〃	〃	7.2	—	—	—	(0.8)	—	—	(6.4)	0.4	0.4	
15	〃	刃～茎	(10.0)	2.0	0.3	0.8	—	—	—	—	—	—	

耳 環

(単位：cm・g)

番号	残存状態	外 径		内 径		断 面		重 量	備考	
		a	b	c	d	e	f			
16	完 形	3.30	3.05	1.55	1.42	1.00	0.87	32.21		
17	ほぼ完形	(3.12)	(2.81)	1.50	1.35	0.90	0.84	23.35		
18	完 形	3.04	2.80	1.78	1.41	0.92	0.88	18.51		
19	完 形	3.35	3.00	1.64	1.25	0.90	0.90	30.94		
20	完 形	2.85	2.67	1.46	1.35	0.88	0.65	19.63		
21	ほぼ完形	(2.85)	(2.69)	(1.44)	(1.30)	(0.84)	(0.76)	19.63		
22	ほぼ完形	(3.20)	(2.92)	1.46	1.31	0.85	0.84	24.25		
23	完 形	2.98	2.74	1.55	1.44	0.78	0.70	19.02		
24	完 形	3.00	2.69	1.68	1.45	0.89	0.70	23.46		
25	ほぼ完形	(3.05)	(2.75)	1.72	1.51	0.78	(0.65)	18.60		
26	ほぼ完形	(3.16)	(2.85)	(1.80)	(1.59)	(0.86)	(0.74)	19.49		
27	ほぼ完形	(2.96)	(2.59)	(1.70)	1.46	(0.72)	(0.65)	11.67		
28	ほぼ完形	2.95	(2.66)	1.58	1.45	0.90	0.68	21.08		
29	欠、2片	(3.10)	(2.50)	(1.80)	(1.50)	(0.80)	(0.70)	(8.43)		金属質が変化し、白い粉状に崩れる。他に1片1/2程の破片あり。
30	完 形	2.27	2.04	1.36	1.10	0.75	0.52	11.87		
31	完 形	2.33	2.11	1.26	1.10	0.80	0.55	11.71		
32	ほぼ完形	(1.90)	(1.82)	1.06	0.93	0.60	(0.50)	3.08		
33	完 形	1.72	1.66	0.94	0.95	0.61	0.45	4.10		

金銅製金具

(単位：cm・g)

番号	残存状態	タテ×ヨコ	幅	厚	重 量	備考
34	周縁欠損	(5.2)×(8.4)	1.2	0.07	7.55	中央円形凸部周囲、8ヶ所に2個1対の小孔穿つ。紐を通した穴と思われる。

今井神社古墳群

管 玉

(単位：cm・g)

番号	残存状態	材 質	色 調	計 測 値						重 量	備 考
				a ₁	a ₂	b ₁	b ₂	d ₁	d ₂		
35	完 形	碧 玉	深 緑	2.85	2.92	1.02	1.04	0.32	0.30	5.73	※部位表記は小玉備考欄参照。
36	完 形	碧 玉	深 緑	2.79	2.82	0.81	0.80	0.35	0.15	3.05	
37	完 形	碧 玉	深 緑	2.35	2.20	1.00	0.96	0.25	0.16	3.66	
38	完 形	碧 玉	深 緑	2.13	2.10	0.65	0.66	0.26	0.13	1.45	

棗 玉

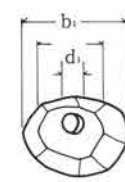
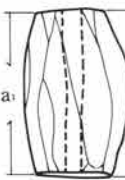
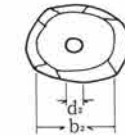
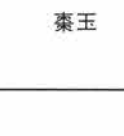
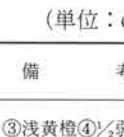
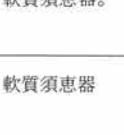
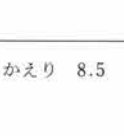

(単位：cm・g)

番号	残存状態	材 質	色 調	計 測 値						重 量	備 考	
				a ₁	a ₂	b ₁	b ₂	c	d ₁			d ₂
39	ほぼ完形	琥 珀	暗 赤	(2.75)	(2.74)	1.11	—	1.75	0.32	—	(2.52)	※部位表記は小玉備考欄参照。
40	完 形	琥 珀	暗赤褐	2.70	2.56	0.96	0.95	1.34	0.37	0.40	(2.62)	
41	ほぼ完形	琥 珀	暗 赤	(2.00)	2.05	1.16	(1.16)	1.60	0.45	(0.35)	(2.12)	
42	破 損	琥 珀	暗 赤	(1.90)	(1.95)	—	—	(1.45)	—	—	(0.41)	

小 玉

(単位：cm・g)

番号	残存状態	材 質	色 調	計 測 値						重 量	備 考	
				a ₁	a ₂	b ₁	b ₂	c	d ₁			d ₂
43	完 形	焼き物	黒 褐	0.49	0.51	0.68	0.69	0.80	0.13	0.15	0.37	※小玉は陶質の焼き物である。調整は、素焼き玉の各面を研磨した後に表面に炭素を吸着させている。
44	完 形	焼き物	黒 褐	0.45	0.50	0.62	0.64	0.76	0.19	0.20	0.31	
45	完 形	焼き物	黒 褐	0.41	0.48	0.59	0.70	0.84	0.17	0.15	0.39	
46	完 形	焼き物	黒 褐	0.35	0.40	0.58	0.61	0.77	0.19	0.20	0.29	
47	完 形	焼き物	灰 褐	0.40	0.41	0.59	0.50	0.74	0.18	0.20	0.25	器面剝離する。
48	完 形	焼き物	黒 褐	0.35	0.43	0.66	0.61	0.80	0.19	0.17	0.35	
49	完 形	焼き物	黒 褐	0.42	0.50	0.55	0.66	0.81	0.20	0.19	0.35	
50	完 形	焼き物	黒 褐	0.40	0.42	0.60	0.56	0.80	0.13	0.12	0.32	
51	完 形	焼き物	黒 褐	0.51	0.47	0.57	0.66	0.80	0.09	0.15	0.38	
52	完 形	焼き物	黒 褐	0.39	0.40	0.53	0.61	0.78	0.37	0.20	0.29	小玉
53	完 形	焼き物	黒 褐	0.45	0.47	0.60	0.55	0.74	0.17	0.15	0.37	
54	完 形	焼き物	黒 褐	0.56	0.41	0.59	0.60	0.80	0.19	0.20	0.33	
55	完 形	焼き物	黒 褐	0.40	0.39	0.61	0.57	0.82	0.24	0.21	0.37	
56	完 形	焼き物	黒 褐	0.45	0.46	0.57	0.55	0.81	0.18	0.16	0.35	管玉
57	完 形	焼き物	灰 褐	0.42	0.50	0.55	0.58	0.78	0.16	0.17	0.30	
58	完 形	焼き物	灰 褐	0.40	0.45	0.65	0.69	0.76	0.17	0.16	0.31	
59	完 形	焼き物	黒 褐	0.46	0.55	0.54	0.65	0.80	0.15	0.20	0.34	
60	完 形	焼き物	黒 褐	0.51	0.53	0.50	0.54	0.75	0.11	0.17	0.35	器面剝離する。
61	完 形	焼き物	灰 褐	0.42	0.45	0.52	0.64	0.76	0.15	0.19	0.24	
62	完 形	焼き物	黒 褐	0.36	0.41	0.61	0.54	0.68	0.14	0.19	0.35	
63	完 形	焼き物	黒 褐	0.49	0.55	0.62	0.60	0.76	0.15	0.15	0.35	
64	完 形	焼き物	灰 褐	0.41	0.50	0.56	0.62	0.74	0.14	0.18	0.32	器面剝離する。

番号	残存状態	材質	色調	計測値						重量	備考		
				a ₁	a ₂	b ₁	b ₂	c	d ₁			d ₂	
65	完形	焼き物	灰褐	0.40	0.43	0.57	0.58	0.77	0.18	0.16	0.24	器面剥離する。	
66	完形	焼き物	黒褐	0.42	0.46	0.49	0.60	0.85	0.12	0.13	0.32	器面剥離する。	
67	完形	焼き物	灰褐	0.35	0.40	0.71	0.65	0.82	0.22	0.26	0.29		
68	完形	焼き物	黒褐	0.45	0.39	0.54	0.60	0.72	0.18	0.20	0.21		
69	完形	焼き物	黒褐	0.50	0.51	0.35	0.42	0.59	0.16	0.19	0.17		
70	完形	焼き物	黒褐	0.45	0.39	0.40	0.51	0.69	0.19	0.20	0.22		
71	完形	焼き物	灰褐	0.43	0.40	0.45	0.52	0.70	0.45	0.51	0.20	器面剥離する。	
72	完形	焼き物	灰褐	0.41	0.45	0.44	0.43	0.60	0.15	0.12	0.15	器面剥離する。	
73	完形	焼き物	黒褐	0.34	0.31	0.45	0.50	0.64	0.10	0.11	0.14		
74	完形	焼き物	黒褐	0.46	0.39	0.33	0.42	0.57	0.12	0.11	0.14		
75	完形	焼き物	黒褐	0.56	0.60	0.36	0.41	0.71	0.16	0.18	0.27		
76	完形	焼き物	黒褐	0.30	0.45	0.45	0.71	0.70	0.21	0.20	0.38		
77	ほぼ完形	焼き物	黒褐	0.46	(0.51)	(0.45)	0.56	0.82	0.20	0.19	0.36		
78	完形	焼き物	黒褐	0.43	0.50	0.46	0.57	0.79	0.21	0.24	0.33		
79	完形	焼き物	黒褐	0.45	0.53	0.56	0.54	0.84	0.25	0.25	0.41		
80	完形	焼き物	黒褐	0.32	0.45	0.55	0.56	0.80	0.26	0.25	0.37		
81	完形	焼き物	黒褐	0.51	0.48	0.60	0.54	0.87	0.25	0.21	0.34		秦王

土器

(単位: cm)

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調 ④残存	②焼成	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
82	須恵器 蓋杯の 蓋	口 13.0 天井 12.4 高 3.4	埋没土中	①長石・黒雲母・ 軽石・砂粗粒② 還元		天井部と口縁部とをわける 突出部の稜はほとんど失われ、 7mmの凹線がめぐる。	外面 口縁部、ロクロ成形の横撫。 天井部は篋削り。 内面 横撫。	③浅黄橙④ $\frac{1}{2}$ 弱 軟質須恵器。
83	須恵器 蓋杯の 杯身	口 12.1 底 13.8 高 3.2	前庭覆土 墳丘覆土	①石英・軽石粗 粒少量②還元③ 浅黄橙④ $\frac{1}{2}$ 。		たちあがりは僅かに内傾 し、受部は外上方にのびる。 底部は扁平で篋削りは $\frac{2}{3}$ 施 す。	外面 ロクロ成形による横撫。底部 の篋削りは逆時計まわり。 内面 ロクロ成形の横撫。	軟質須恵器
84	須恵器 蓋杯の 杯身	口 10.3	前庭覆土	①軽石・石英粗 粒②還元③灰 ④ $\frac{1}{2}$ 。		小形化した杯身。口辺部は かえりをもつ。	外面 ロクロ成形による横撫。底部 は、篋削り。 内面 ロクロ成形による横撫。	かえり 8.5
85	須恵器 高杯	脚頸 4.2	墳丘覆土	①軽石・砂粗粒 少量②還元、硬 質③褐灰		脚部は円筒部が細長く、2 段長方形透しの間は凹部が 2本めぐる。杯部嵌込み。	外面 ロクロ成形による横撫。 内面 ロクロ成形による横撫。	④脚柱上半
86	須恵器 高杯	底 (11.7) 脚頸 (3.6)	前庭A地点	①軽石粗粒②還 元、硬質③灰白 ④脚部 $\frac{1}{4}$ 。		脚部は円筒部が細長く、裾 部は外方へ大きく広がる。 透しは長方形に2段穿つ。	外面 ロクロ成形による横撫。篋状 工具によって凹部呈す。 内面 ロクロ成形による横撫。	
87	須恵器 甕	口 (11.9)	前庭D地点 墳丘覆土	①軽石細粒含む ②還元③灰④口 縁部 $\frac{1}{2}$ 。		口縁部は外反し、口唇部は、 つまみ出して先端は平らで 1条凹部がめぐる。	外面 ロクロ成形による横撫。 内面 頸部上方に凹部がめぐる。	①及び②は86に近 似する。器形は89 に近似。
88	須恵器 小型壺	口 4.3 胴 7.8	前庭 墳丘覆土	①軽石・石英粗 粒含む②還元③ 灰褐④ $\frac{1}{2}$ 。		口径は胴最大部の $\frac{1}{2}$ を呈す。 口縁部は上半で大きく外反 し口唇部の器肉は薄くなる。	外面 ロクロ成形による横撫。 内面 回転を伴う横撫。	頸部3.0 ③断面はにぶい橙

今井神社古墳群

番号	器器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
89	須恵器 罎	胴 10.1 底 4.4 高 (15.6)	前庭 前庭B地点 前庭覆土	①石英・軽石・ 砂粗粒②還元③ 灰④口唇部欠損		頭部の括れ部は、器高の1/2 にあたる。口縁部は大きく 外反した先端が外稜を呈す。	外面 ロクロ成形の横撫。頭部と胴 部に凹部各2条めぐる。胴部に円孔 を穿つ。胴下半部は横方向の篋削り。	頸部3.0 円孔1.2
90	須恵器 平瓶	口 6.7 底 8.6 高 12.2	前庭 前庭A地点 墳丘覆土	①軽石混入②還 元、硬質③褐灰 ④1/4		漏斗状の口縁部は、丸みの ある天井部の1/3に接合。底 部は平底。	ロクロ成形による横撫。外面 口縁 中央及び肩端部に2条の凹線がめぐ る。胴下部は、横方向の篋削り。	頸 4.5 肩 15.0 口縁・肩部自然釉。
91	須恵器 平瓶	口 8.8 底 7.9 高 13.5	前庭 A・D地点 前庭覆土	①軽石・砂粗粒 混入②還元③灰 白④ほぼ完形		漏斗状の口縁は天井部の中 央から僅か横に接合。最大 径は胴部中位にあたる。	円形粘土板で天井部を覆う成形は90 と同様。沈線2条がめぐる位置も同 様。胴下部は、横方向の篋削り。	頸 4.5 肩 16.5 胴 17.1
92	須恵器 短頸壺	頸 4.9 胴 14.2	前庭覆土 墳丘覆土	①精選良好②還 元、硬質③灰褐 ④1/4		張りのある肩部から直立ぎ みの口縁部は、上半で外反 し薄い。底部は丸底。	ロクロ成形。外面 横撫。胴中央～底 部にかけて手持ち篋削り。 内面 横撫。底部は篋調整で凹凸有。	外面と内面底部に タールの細かな黒 点付着。
93	須恵器 直口壺	頸 (8.0) 肩 14.3	前庭 A・D地点 墳丘覆土	①軽石・砂粗粒 混入②還元③灰 白④1/4		92とほぼ同様の器形を呈す が、底部平底さみ。	ロクロ成形。外面 横撫。胴下部は 横方向の手持ち篋削り。底部削平底。 内面 回転を伴う横撫。	
94	須恵器 小型壺	口 16.4 胴 18.7	前庭	①軽石・黒色鈹 物混入②還元③ 灰白④1/4		口縁部は短く外反する。口 唇部はつまみ出す。肩部の 張りは胴上部にある。	口縁部は横撫。 外面 胴部横撫の後、平行叩き目文。 内面 胴部横撫の後、平行叩き目文。	頸 12.0 ③断面はにぶい橙
95	須恵器 中型壺	(7.2)	埋没土中	①軽石・長石粗 粒僅混入②還元		粘土紐の巻き上げ、幅4.0 cm、厚さ1.0cm。	外面 平行叩き目の後、クシ状工具 で平行沈線文。内面 同心円叩き目。	③器面灰、断面赤 褐④胴部破片
96	須恵器 中型壺	(6.9)	埋没土中	①軽石・砂粗粒 混入②還元硬質		粘土紐の巻き上げ。厚さ1. 2cm。	外面 回転を伴う横撫。 内面 同心円叩き目文を施す。	③器面褐灰、断面 にぶい赤褐④破片
97	須恵器 中型壺	(4.2)	墳丘覆土	①軽石細粒混入 ②還元③暗灰		粘土紐の巻き上げ。厚さ0. 8cm。	外面 平行叩き目文。 内面 同心円叩き目文。	④胴部破片
98	須恵器 中型壺	(3.6)	埋没土中	①軽石細粒混入 ②還元③暗青灰		粘土紐の巻き上げ。幅3.8 cm、厚さ1.1cm。	外面 平行叩き目文。 内面 同心円叩き目文。	④胴部破片
99	須恵器 中型壺	(5.1)	埋没土中	①軽石・長石粗 粒僅混入②還元		粘土紐の巻き上げ。幅3.5 cm、厚さ0.9cm。	外面 平行叩き目文。 内面 同心円叩き目文。	③灰④胴下部破片

埴輪

(単位：cm)

番号	形態	残存部	大きさ		透孔(a×b)	突帯(c×d)	刷毛目	色調	胎土	焼成	粘土帯幅	備考
			口径・底径・器高	第1・第2	第1・第2	円筒部・その他						
100	C a	1/3	—・16.6・81.2	(4.5×4.3)・—	(2.6×1.0)・2.4×0.8	12	橙	D	G.f	3.0	完形復元。前庭F・C・G地点、 前庭。	
101①	C a	胴部	—・(16.4)・(79.2)	—・—	—・(2.6×0.8)	11	橙	D	G.f	3.5	図面上復元実測。前庭F地点より 出土。	
	②	左腕	タテ(22.0)・手首2.8	—・—	—・—	11	橙	D	G.f	3.5	腕は嵌込み式。親指欠損。手のひ らに幅2cm程のものを持った凹あ り。	
102	C a	右腕	タテ(16.4)・手首2.9	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	—	親指欠損。手のひらに幅2cm程の 凹あり。前庭G地点出土。	
103	C a	右腕	タテ(14.4)・手首3.0	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	—	腕は肩に嵌込み式。前庭F地点よ り出土。	
104	C a	右腕	タテ(9.4)・手首2.6	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	—		

2号墳出土遺物

番号	形態	残存部	大 き さ		透孔(a×b)		突帯(c×d)		刷毛目	色調	胎土	焼成	粘土帯幅	備 考
			口径・底径・器高	第1・第2	第1・第2	円筒部・その他								
105	C a	耳飾り	5.4×4.4・厚0.8	—・—	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	—	表面は指頭圧、裏面は刷毛目を残存。前庭E地点出土。		
106	C a	弓	タテ(13.2)・太2.0	—・—	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	—	100の人物埴輪の弓と同様。裏面は付着痕あり。弓下半部。前庭F地点。		
107	C a	弓	タテ(13.0)・太1.6	—・—	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	—	弓上半部。裏面に取り付け部あり。F地点。		
108	C a	靱	22.5×6.7・厚1.0	—・—	—・—	—・—	14	橙	D	G.f	3.8	矢柄は線刻で表現。鱗は欠損する。玉を帯に飾る。		
109①	C a	靱	(4.5×4.8)・厚1.4	—・—	—・—	—・—	16	橙	D	G.f	3.0	筒胴部に線刻柄。接合面は刷毛目痕あり。前庭F地点出土。		
②	C a	靱	(6.1×3.0)・厚1.0	—・—	—・—	—・—	16	橙	D	G.f	3.0	筒胴部に線刻柄。裏接合面に刷毛目痕。		
③	C a	靱	(3.1×2.7)・厚1.1	—・—	—・—	—・—	16	橙	D	G.f	3.0	筒下部の帯部分。		
110	C a	靱	7.9×6.1・厚0.9	—・—	—・—	—・—	13	橙	D	G.f	—	鱗右部分。表面に刷毛目。懸紐は粘土紐の貼付と線刻。前庭H地点出土。		
111	C a	鱗破片	(8.3×8.3)・厚1.2	—・—	—・—	—・—	14	橙	D	G.f	—	表面は刷毛目の後、線刻。裏面は刷毛目。		
112	C—	—	(8.2×7.8)・厚1.3	—・—	—・—	—・—	13	橙	D	G.f	—	表・裏は全体に刷毛目痕。裏面に剝離部分あり。		
113	C a	鱗破片	(10.8×5.8)・厚1.6	—・—	—・—	—・—	14	明赤褐	D	G.f	—	表面は刷毛目の後、線刻。裏面は刷毛目。		
114①	C a	右側鱗	(6.8×6.4)・厚1.3	—・—	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	—	表面は刷毛目の後に線刻。裏面は刷毛目。		
②	//	左側鱗	(5.2×5.3)・厚1.4	—・—	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	—	表裏面共に、刷毛目の後、線刻文様。		
③	//	筒胴部	(8.3×3.2)・厚1.4	—・—	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	—	表裏面共に刷毛目痕を残し、接合面も刷毛目痕あり。		
④	//	右側鱗	(6.4×4.8)・厚1.5	—・—	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	—	表面は刷毛目の後に線刻。裏面は刷毛目。		
⑤	//	鱗破片	(5.2×3.6)・厚1.2	—・—	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	—	表面は刷毛目の後に線刻。裏面は刷毛目。		
⑥	//	右側鱗	(4.6×6.0)・厚1.2	—・—	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	—			
⑦	//	筒胴部	(4.4×4.8)・厚1.4	—・—	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	—			
115	C a	首飾り	2.0×1.9・厚0.8	—・—	—・—	—・—	—	橙	E	G.f	—	100・101と同様の人物の首飾り。前庭F地点。		
116	C a	首飾り	1.6×1.6・厚0.8	—・—	—・—	—・—	—	橙	E	G.f	—	115と近似する。裏面は貼付面。前庭F地点。		
117	C a	靱	1.4×2.5・厚0.7	—・—	—・—	—・—	—	橙	E	G.f	—	2つのボタン状の飾りが付着している。前庭F地点。		
118	C a	靱	3.3×(2.9)・厚0.6	—・—	—・—	—・—	—	橙	E	G.f	—	ベルト部分の端に2個のボタンを接合して貼付。前庭E地点より出土。		
119	C a	靱	(2.8×2.5)・厚0.6	—・—	—・—	—・—	—	橙	E	G.f	—	ベルト部分の端に119より大きいボタン状飾りを1個貼付。		
120	C a	弓	(5.2)×2.5・厚1.8	—・—	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	—	表面縦中央は凹部、裏面は胴部の貼付面。附。前庭F地点(120～133)。		
121	C a	弓	(2.5)×0.7・厚0.5	—・—	—・—	—・—	—	橙	E	G.f	—			

今井神社古墳群

番号	形態	残存部	大 き さ		透孔(a×b)		突帯(c×d)		刷毛目	色調	胎土	焼成	粘土帯幅	備 考
			口径・底径・器高	第1・第2	円筒部・その他									
122	C a	靱	(2.3×1.3)・厚0.5	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—		
123	C a	靱	(2.0)×1.4・厚0.6	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—	懸紐。線刻。	
124	C a	靱	(3.5)×1.4・厚0.5	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—	懸紐。線刻。裏面の貼付面に刷毛目痕。	
125	C a	靱	(2.7×1.7)・厚0.6	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—	懸紐。線刻。	
126	C a	靱	(2.3×2.4)・厚0.5	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—	懸紐。線刻。粘土紐幅1.4。	
127	C a	弓	(4.6)×0.8・厚0.7	—・—	—・—	—	—	—	橙	E	G.f	—	弦近くの弦。	
128	C a	靱	(5.0)×1.2・厚0.7	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—	懸紐。	
129	C a	靱	(5.8)×1.3・厚0.7	—・—	—・—	—	—	12	橙	D	G.f	—	懸紐。裏の貼付面に刷毛目痕あり。	
130	C a	靱	(2.8)×1.3・厚0.9	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—		
131	C a	靱	(2.6)×1.2・厚0.7	—・—	—・—	—	—	—	橙	E	G.f	—		
132	C a	靱	(2.0)×1.5・厚0.5	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—	懸紐。裏の貼付面に刷毛目僅かにあり。	
133	C a	靱	(2.4)×1.2・厚0.4	—・—	—・—	—	—	14	橙	D	G.f	—	懸紐。裏の貼付面に刷毛目痕あり。	
134	C a	靱	(4.9)×2.2・厚1.1	—・—	—・—	—	—	14	橙	D	G.f	—	房飾り。裏の貼付面に刷毛目痕あり。	
135	C a	靱	(3.7)×1.8・厚0.5	—・—	—・—	—	—	14	橙	E	G.f	—	房飾り。裏の貼付面に刷毛目痕あり。前庭。	
136	C a	耳飾り	4.5×1.3・厚1.2	—・—	—・—	—	—	—	橙	E	G.f	—	前庭F地点。	
137	C a	靱	(3.2)×1.2・厚0.9	—・—	—・—	—	—	—	橙	E	G.f	—	懸紐。前庭F地点。裏貼付面に刷毛目痕。	
138	C a	靱	(2.7)×0.9・厚0.4	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—	裏の貼付面に刷毛目痕僅かにあり。前庭F地点(138~141)。	
139	C a	靱	(2.5)×1.3・厚0.7	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—	裏の貼付面に刷毛目痕僅かにあり。	
140	C a	靱	(5.1)×1.3・厚0.5	—・—	—・—	—	—	12	橙	E	G.f	—	懸紐。裏の貼付面に刷毛目痕あり。	
141	C a	靱	(4.6)×1.5・厚0.6	—・—	—・—	—	—	11	橙	D	G.f	—	裏の貼付面に刷毛目痕あり。	
142	C a	上衣裾	(3.9×4.3)・厚1.0	—・—	—・—	—	—	14	橙	D	G.f	2.0	上衣の裾下段。裏面は刷毛目の後、線刻。表面は貼付痕。前庭E地点出土。	
143	C a	上衣裾	(2.9×9.4)・厚1.0	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	2.5	飾り裾。表面は線刻。裏面は貼付痕。前庭G地点出土。	
144	C a	上衣裾	(3.1×9.5)・厚0.8	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	2.5	飾り裾。表面は線刻と刺突。裏面は貼付痕あり。	
145①	C a	胴部	(4.1×3.0)・厚1.2	—・—	—・—	—	—	12	橙	D	G.f	5.0	帯に鋸歯文を線刻。表面に貼付面あり。	
②	C a	〃	(5.6×5.7)・厚1.0	—・—	—・—	—	—	12	橙	D	G.f	5.0	表面は縦方向の刷毛目。帯の剥離した面あり。	
③	C a	罎部	(6.0×7.4)・厚1.0	—・—	—・—	—	—	12	橙	D	G.f	5.0	表面は縦方向の刷毛目の後、線刻。	
④	C a	胴部	(5.5×2.9)・厚0.9	—・—	—・—	—	—	12	橙	D	G.f	5.0	帯は刷毛目の後、線刻で鋸歯文。帯の横に剥離面あり。	
⑤	C a	〃	(5.8×4.3)・厚0.9	—・—	—・—	—	—	12	橙	D	G.f	5.0	帯は刷毛目の後、線刻で鋸歯文。帯の横に剥離面あり。	
⑥	C a	〃	(6.7×6.5)・厚1.0	—・—	—・—	—	—	12	橙	D	G.f	5.0	帯が縦方向に貼付。表面全体に縦方向の刷毛目痕。	
146	C b	妻部	(10.9×8.1)・厚1.3	—・—	—・—	—	—	17	褐 灰	D	H.g	—	還元ぎみ。妻円窓3.3cm。表面は刷毛目。裏面は刷毛目の後、線刻。	
147①	C—	—	2.2×2.6・1.7×6.8	—・—	—・—	—	—	—	橙	D	G.f	—		

2号填出土遺物

番号	形態	残存部	大 き さ		透孔(a×b)		突帯(c×d)		刷毛目	色調	胎土	焼成	粘土帯幅	備 考
			口径・底径・器高	第1・第2	第1・第2	円筒部・その他								
②	C b	大 棟	7.4×5.9・厚1.5	—・—	—・—	—	//	//	//	—	切妻形となる大棟に鋸歯模様を線刻。棟の前後に剥離面あり。			
148	C b	堅魚木	2.3×2.0・1.9×(4.5)	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	—	堅魚木を前後で別々に棟にとりつける。前庭F地点。			
149	C—	—	6.6×3.0・厚1.0	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	—	裏面の剥離面に刷毛目痕あり。前庭F地点出土。			
150	C d	鈴	4.8×4.6・厚1.5	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	—	内面は指で凹をつける。前庭出土。			
151	C d	鈴	3.8×3.8・厚0.9	—・—	—・—	—	橙	E	G.f	—	内面は指で凹をつける。前庭E地点より出土。			
152	C d	鼻	(4.3×4.4)・厚1.0	—・—	—・—	16	橙	E	G.f	—	鼻孔の径1.2。			
153	C e	½ 裾欠損	21.6・—・現高(57.3)	—・—	2.9×1.1・3.6×1.9 4.8×1.6	16	橙	D	G.f	2.3	上部には、杯底部となる円形粘土板が嵌込みになる。径12.0 厚0.9			
154	C e	上半部	(20.0)・—・—	—・—	—・2.3×1.2 3.6×1.5	17	橙	D	G.f	2.5	図面上復元実測。153と同様の器形呈す。厚0.8。			
155	C c	左鱗部	(25.0×16.0)・厚1.5	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	—	表面は刷毛目の後2本1単位で同心円模様を線刻。側面右は胴部への貼付面あり。			
156	C—	基底部	—・16.4・(22.6)	—・—	—・—	12	明赤褐	D	G.f	2.2	145と胎土・焼成が類似する。前庭G地点。			
157	C—	基底部	—・17.3・(22.3)	—・—	—・—	12	橙	D	G.f	4.0	155と胎土・焼成が類似する。前庭出土。			
158	C—	基底部	—・16.6・(25.9)	—・—	—・—	14	橙	D	G.f	4.0	前庭E地点出土。			
159	C e	裾 部	—・25.3・2.3	—・—	—・—	—	橙	D	G.f	2.2	表面は刷毛目痕が僅かに残る。裾部先端はつまみ出し。前庭G地点出土。			
160	C e	裾 部	—・33.6・1.9	—・—	—・—	14	橙	D	G.f	2.2	粘土帯2段接合して、胴部に立ちあがる。前庭G地点。			
161	A	½	(24.6)・12.0・(43.4)	—・4.3×3.8	1.6×0.5・2.6×0.7	15	橙	D	G.f	3.2	口厚0.6 図面上復元。口縁部にヘラ記号。底厚1.0 透孔2段。前庭より出土。			
162	A	ほぼ完形	(25.0)・13.4・43.1	—・(4.8×4.5)	1.7×0.3・2.1×0.6	11	橙	D	G.f	2.1	口厚1.0 透孔○ 口縁部内面にヘラ記号。底厚1.7			
163	A	ほぼ完形	23.7・13.0・44.2	4.4×3.6・(4.0×3.8)	1段1.8×0.5 2~4段1.6×0.3	13	橙	D	G.f	2.8	口厚0.6 透孔○ 口縁部外面にヘラ記号。底厚1.3 基底部裾外面は厚み調整。墳丘。			
164	A	ほぼ完形	(20.8)・13.4・(40.5)	—・(3.6×3.4)	1段2.3×0.5 2段1.5×0.5	14	橙	D	G.f	2.2	口厚0.7 口縁部外面にヘラ記号。墳丘。底厚1.1			
165	A	基底部	—・(12.0)・(7.9)	—・—	—・—	13	鈍い橙	D	G.g	3.0	底厚1.5 基底部は篋で厚みを調整。前庭より出土。			
166	A	基底部	—・12.3・(7.4)	—・—	—・—	14	鈍い橙	D	G.g	2.2	底厚1.2 外面は篋でおさえ、内面は横方向の篋削りで器肉の調整を行う。G地点。			
167	A	基底部	—・13.2・(7.8)	—・—	—・—	13	橙	D	G.g	2.4	底厚1.6 墳丘I地点より出土。			
168	A	基底部	—・12.6・(4.9)	—・—	—・—	—	淡 橙	D	G.g	2.3	底厚2.1 基底部は外面を篋調整。			
169	A	基底部	—・13.6・(7.8)	—・—	—・—	9	橙	D	G.f	3.6	底厚1.9			
170	A	基底部	—・13.3・(12.0)	—・—	—・—	14	橙	E	G.g	4.8	底厚1.1 外面は篋で押さえ、内面は篋削り。部分的に薄い粘土板の剥離がある。			
171	A	口縁～上半部	21.4・—・(18.5)	—・(4.7×4.4)	(1段) 2.3×0.7 (2段) 1.7×0.5	12	橙	D	G.f	3.2	口厚0.8 透孔○。刷毛目単位1.5。前庭G地点より出土。			

今井神社古墳群

番号	形態	残存部	大 き さ		透孔(a×b)	突帯(c×d)	刷毛目	色調	胎土	焼成	粘土帯幅	備 考
			口径・底径・器高	第1・第2	円筒部・その他							
172	A	口縁部	23.7・—・(9.8)	—・(4.8×4.2)	(1段) 2.1×0.9	12	橙	D	G.f	3.0	口厚0.8 透孔○。	
173	A	口縁部	24.0・—・(9.4)	—・—	(1段) 1.7×0.6						口厚0.7 前庭G地点出土。	
174	A	基底～ 下半部	—・14.5・(29.5)	5.0×5.0・	1段 1.9×0.6 2段 2.6×0.5	9	橙	D	G.f	4.0	底厚1.8 前庭G地点出土。	
175	A	基底～ 下半部	—・13.8・(26.0)	4.9×4.2・	1段 2.3×0.7 2段 2.3×0.8						底厚1.7 墳丘より出土。	
176	A	胴 部	胴突帯(16.8)・(7.4)	(3.4×3.1)	(1段) 1.8×0.6						胴厚0.9 透孔○。	
177	A	胴 部	胴突帯(17.4)・(6.5)	(4.8×4.4)	(1段) 2.4×0.6						胴厚1.0	
178	A	胴 部	胴部(29.2)・(6.6)	—・—	—・—	14	浅 橙	D	G.f	2.0	胴厚1.2 外面縦方向刷毛目の後横方向刷毛目整形。同一形態刷毛使用破片4個。	
179	A	胴 部	胴部(24.8)・(7.6)			13	橙	D	G.f	3.0	胴厚1.3 178と同様の形態。今井神社古墳表採資料と同様。	
180	A	(基底部)	胴部(23.2)・(6.0)			12	橙	D	G.f	1.8	底厚2.7 178・179と同様。内面に粘土紐接合痕が明瞭に残る。	
181	A	胴 部	胴突帯(27.2)・(7.2)	—・—	(1段) 2.7×1.3	10	浅黄橙	D	G.f	2.0	胴厚1.6 縦刷毛目。	
182	A	胴 部	胴突帯(25.2)・(7.2)	—・—	(1段) 2.5×0.8	13	浅黄橙	E	G.g	1.6	胴厚0.9 外面縦方向刷毛目の後、横方向刷毛目整形。178～180と同様。	
183	A	基底部	—・(24.8)・—	—・—	—・—	9	褐 灰	D	H.f	3.0	底厚2.1	
184	B	口縁～ 上半部	29.0・—・(34.9)	(4.0×3.8)	2.0×1.2・2.3×1.3	14	橙	D	G.f	3.2	口厚0.8 刷毛目の幅1.4cm・沈線8本。胴厚1.2	
185	B	口縁部	29.2・—・(12.0)	—・—	—・2.0×1.2	14	橙	D	G.g	2.0	口厚0.7 胴厚1.3	
186	B	口縁部	29.7・—・5.8	—・—	—・—	14	橙	D	G.f	2.0	口厚0.7 前庭より出土。	
187	B	口縁部	(29.8)・—・(6.8)	—・—	—・—	8	橙	D	G.f	—	口厚(0.7) 内面に「V」状のへら記号。前庭出土。	
188	B	口縁部	28.0・—・(5.0)	—・—	—・—	13	橙	D	G.f	2.2	口厚0.9	
189	B	口縁部	(25.8)・—・(6.2)	—・—	—・—	14	橙	D	G.f	2.2	口0.6 内面に「ニ」状のへら記号。	
190	B	胴 部	胴突帯16.6・(17.7)	(4.2×3.7)	2.1×1.2・—	13	橙	D	G.f	1.5	胴厚1.3 透孔は円筒埴輪より僅かに小さい。透孔○。	
191	B	胴 部	胴突帯13.8・(14.2)	(3.5×3.2)	2.4×0.7・—	10	橙	D	G.f	1.5	胴厚1.2 透孔○。	
192	B	胴 部	頸突帯(12.6)・(12.7)	—・—	2.2×0.9・—	10	橙	D	G.f	1.5	胴厚1.0	
193	B	胴 部	胴突帯(14.6)・(6.6)	(4.3×3.2)	2.6×1.1・—	13	橙	D	G.f	1.5	胴厚1.1 透孔○。	
194	B	胴 部	口縁部突帯(36.0)	—・—	—・2.8×1.2	7	浅黄橙	D	G.f	2.0	口厚1.5 突帯の接合面は横撫。断面色調は、明褐灰。	

土 器

(単位：cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
195	土師器 杯	口 (11.8) 底 (11.7) 高 (5.6)	前庭C・F 地点	①砂粗粒僅かに 含む②酸化③橙 ④ $\frac{1}{3}$	外稜の広がり口辺の杯。立ち上がりは器高の $\frac{1}{3}$ にあたり、口辺部は二段構成。	口辺部は内外面共に、横撫。 外面 底部は手持ち篋削り。 内面 底部は篋撫。	底部外面は黒斑。
196	土師器 杯	口 (11.4) 底 (9.7) 高 (4.8)	前庭C地点	①長石粗粒少量、軽石細粒少量②酸化軟質	外稜の広がり口辺の杯。口辺部内面は2ヶ所に稜を呈す。器内は口唇部が薄い。	口辺部は内外面共に、横撫。 外面・内面 器面が磨滅している。	③橙④ $\frac{1}{3}$ 。 水澱し粘土。

2号墳出土遺物

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調 ②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
197	土師器 杯	口 (12.5) 底 (10.3) 高 (4.0)	前庭C・E 地点 前庭	①砂細粒僅かに 含む②酸化軟質 ③橙④ $\frac{1}{2}$	外稜の広がり口辺の杯。口 辺外面の中位はややふくら み、口唇部で外反する。	口辺部は内外面共に、横撫。 外面・内面 器面が磨滅している。	水漉し粘土。
198	土師器 杯	口 12.4 底 9.7 高 (3.8)	前庭B・C 地点	①砂粗粒、水漉 し粘土②酸化軟 質③橙	外稜の広がり口辺の杯。器 肉は底部中央が薄い。口唇 部で僅かに外反する。	口辺部は横撫。 外面・内面 器面が磨滅している。	④ $\frac{1}{2}$ 弱 口唇部の一部に煤 付着。
199	土師器 杯	口 (12.2) 底 (10.0) 高 (4.5)	前庭B地点 墳丘覆土	①砂・軽石細粒 少量②酸化軟 質、水漉し粘土	外稜の広がり口辺の杯。口 唇部で僅かに内湾する。	口辺部は横撫。 外面・内面 器面が磨滅している。	③浅黄橙④ $\frac{1}{2}$ 内面はいぶし状で 炭素を吸着。
200	土師器 杯	口 12.3 底 9.8 高 4.0	前庭B地点	①砂細粒、水漉 し粘土②酸化軟 質③橙	外稜の広がり口辺の杯。口 唇部で僅かに内湾。歪みが 著しい。	口辺部は横撫。 外面 底部は篋削りと思われるが単 位方向不明瞭。内面 不明瞭。	④ $\frac{1}{2}$ 外面の $\frac{1}{2}$ に煤付 着。
201	土師器 杯	口 (11.2) 底 (10.8) 高 3.9	前庭B地点 墳丘覆土	①砂細粒少量、 水漉し粘土②酸 化・軟質	外稜の広がり口辺の杯。口 唇部で内湾する。器肉は薄 い。	口辺部、内外面共に横撫。 外面 底部手持ち篋削り。 内面 磨滅していて整形痕不明瞭。	③橙④ $\frac{1}{2}$ 弱
202	土師器 杯	口 (11.0) 底 (8.8) 高 (3.5)	前庭	①良好、水漉し 粘土②酸化・軟 質③橙	外稜の広がり口辺の杯。器 形は201と同様を呈す。	成・整形は、201と同様。	④ $\frac{1}{2}$ 外面底の一部黒 斑。
203	土師器 杯	口 (14.0) 底 (14.6) 高 (3.7)	前庭覆土	①黒雲母粗粒、 砂細粒②酸化③ 橙④ $\frac{1}{2}$	内傾した立上がり口辺の杯。 口唇部内側に沈線が一条め ぐる。器肉は底部が7mm。	口辺部は内外面共に横撫。 外面 底部は手持ち篋削り。 内面 指撫。	内面にいぶし状の 黒色付着。外面に も一部付着。
204	土師器 高杯	口 17.6	前庭	①軽石・石英粗 粒、黒雲母細粒	底部に稜をもち広がる杯部、 口唇部は内湾きみで、深い。	粘土紐巻きあげ成形。杯部口辺の内 外面は、横撫の後放射状篋研磨。	②酸化③橙④杯部 1.5の粘土紐。
205	土師器 高杯	口 15.2	墳丘覆土	①軽石・石英・ 黒雲母・砂粗粒	口辺下部はふくらみを呈 し、口唇部は内湾する杯部。	外面・内面 共に横撫の後、放射状 篋研磨。	②酸化③浅黄橙④ 杯部 $\frac{1}{2}$ 内面黒斑。
206	土師器 高杯	口 17.2	墳丘覆土	①赤色粘土・石 英・黒雲母粗粒	杯部外面の稜は弱く口辺部 は外反。口唇部で僅かに内湾。	外面・内面 共に横撫の後、放射状 篋研磨。	②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$
207	土師器 高杯	口 16.2	墳丘覆土	①黒雲母・軽石 細粒②酸化	杯部外面の稜は弱く口辺下 部はふくらみを呈し外反。	外面 横撫の後、篋削り調整。 内面 横撫。	③にぶい黄橙④ $\frac{1}{2}$ 外面煤付着。
208	土師器 高杯	杯底 13.6	墳丘覆土	①軽石・砂細粒 ②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$	外稜の広がり口辺の杯、稜 はその後横方向に篋削り。	杯部粘土紐巻きあげ成形。 外・内面 全体に放射状篋研磨。	水漉し粘土。ホゾ で嵌込式。
209	土師器 高杯	杯底 (9.0)	墳丘覆土	①軽石・赤色粘 土・石英粗粒	口辺部は外反し、ゆるい稜 を呈す。	外面 横撫。口辺放射状篋研磨。 内面 横撫。全体放射状篋研磨。	②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$ ホゾ嵌込式。
210	土師器 高杯	脚頸 4.6	周堀覆土	①軽石・黒雲母 砂粗粒②酸化	円錐台の脚部の中位に、1.4 cmの3個所の円孔を穿つ。	外面 縦方向篋削りの後篋研磨。 内面 縦方向指撫。	③浅黄橙④杯底部 ～脚部上半
211	土師器 高杯	脚頸 4.8	墳丘覆土	①軽石・黒雲母 砂粗粒②酸化	円錐台状で裾部は「く」の字 状に外折。杯接合部は厚い。	外面 横撫の後、篋削り。 内面 指による撫調整。	③にぶい橙④ $\frac{1}{2}$
212	土師器 高杯	脚頸 3.8	墳丘覆土	①軽石・黒雲母 石英粗粒②酸化	211と近似するが頸部は細 く、器内も僅かに薄い。	外面 縦方向篋削り、横撫、篋研磨。 内面 縦方向指撫の後、横方向篋削り。	③橙④ $\frac{1}{2}$ 裾部、内外面横撫。
213	土師器 高杯	脚頸 4.2 底 (14.8)	墳丘 周堀埋土	①石英・黒雲母・ 砂・軽石粗粒② 酸化③浅黄橙	円錐台状で裾部は大きく外 折。杯脚接合部は内面凸状 に篋でえぐるが杯底部は厚。	脚部、粘土紐巻きあげ。 外面 撫の後縦方向の篋削り。 内面 上部絞り、縦指撫、篋調整。	④脚部 $\frac{1}{2}$ 、裾欠損。 裾部は横撫。

今井神社古墳群

番号	器 器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
214	土師器 高 杯	脚頭 3.0 底 12.9	墳 丘	①軽石・黒雲母 細粒②酸化③に ぶい黄橙④脚部	212と近似する。裾部は外 折。器内は脚柱上部は厚く、 下半部は薄い。	脚柱下半部は粘土紐の巻きあげ。 外面 撫調整の後、縦方向筥削り。 内面 上部絞痕、巻きあげの後指撫。	粘土紐幅1.3 粘土紐厚0.7 内面縦方向 $\frac{1}{2}$ 黒斑。
215	土師器 高 杯	脚頭 3.7	墳丘覆土	①軽石・黒雲母・ 石英・砂細粗粒	212と近似する。杯接合部は 坯底部が3mmと薄い。	外面 縦方向筥調整、下部に刷毛目。 内面 上部絞痕、下半部横方向筥削り。	②酸化・軟質③浅 黄橙④脚柱部のみ。
216	土師器 高 杯	脚頭 3.1	墳丘覆土	①軽石細粒②酸 化③にぶい橙	212と近似する。裾部は外 折。器内は薄い。	外面 縦方向筥調整。 内面 絞り痕、横撫、筥調整。	断面内面、炭素吸 着し黒褐色④ $\frac{1}{2}$
217	土師器 高 杯	脚頭 3.3	周堀埋土	①軽石・砂細粒 ②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$	円錐台状の脚部上半は器肉 が厚く、下半は薄い。	外面 縦方向筥削りの後筥研磨。 内面 絞り痕の指撫。下半部横筥削り。	210～217は211を 除きホソ嵌込式。
218	土師器 罎	口 8.0 頸 (5.5)	墳丘覆土	①軽石・黒雲母 石英細粒②酸化	口縁部は「く」の字状に外反。 口径と胴部最大径は等しい。	外面 横方向指撫の後、胴下部筥削り。 内面 横方向指撫。	③にぶい橙、黒褐 ④ $\frac{1}{2}$ 器肉は薄い。
219	土師器 罎	胴 (8.6)	墳丘覆土	①黒雲母細粒② 酸化③浅黄橙	胴部がまるく、口縁部は外 反する。器肉はやや厚め。	外面 指撫、筥調整。頸部に刷毛目。 内面 絞り痕。指撫。	④胴上半 $\frac{1}{4}$ 口縁部は横撫整形。
220	土師器 罎	胴 (10.0)	墳丘覆土	①黒雲母・軽石・ 赤色粘土細粒	胴部は張りがるやかで高 い。	外面 ↑筥削りの後、縦方向筥研磨。 内面 横方向の指撫。	②酸化③橙④ $\frac{1}{3}$ 粘土紐の巻きあげ。
221	土師器 罎	口 (10.3)	墳丘覆土	①石英粗粒、黒 雲母・軽石細粒	口縁部は、弱く内湾しなが ら外反。	外面 横撫の後、 \vee 方向筥研磨。 内面 横撫。	②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$ 弱
222	土師器 罎	口 (8.6)	墳丘覆土	①黒雲母細粒、 石英粗粒②酸化	口縁部は「く」の字状に外 反。肩部は張る。	口縁部、内外面共に横撫。	③にぶい橙④ $\frac{1}{4}$
223	土師器 台付甕	口 13.3 頸 11.3	埋没土中	①砂粗粒②酸化 ③橙④口縁～肩 部 $\frac{1}{2}$	大きく張った肩部をもつ。 口縁部は、大きく外反する 「S」字状を呈す。	口縁部は内外面共に横撫。 外面 肩部は筥削り。 内面 指頭圧痕、指撫。	肩部に黒斑。
224	土師器 台付甕	台部 5.7	埋没土中	①軽石・赤色粘 土・砂粒②酸化	張りの大きな胴部から小 さな底部で外折する。	外面 指撫、筥撫。 内面 \、指撫、筥撫。	③橙④ $\frac{1}{2}$
225	土師器 台付甕	台部 2.5	周堀覆土	①軽石・砂細粒 ②酸化③黒褐	甕胴部接合部から台部へ外 折する。	外面 ↓筥削り。 内面 横方向筥調整。	④台上半部 内外面煤吸着黒色。
226	土師器 台付甕	台部 4.2	墳丘覆土	①軽石・黒雲 母・砂粗粒②酸 化	張りの大きな胴部から小 さい底部につづく。	外面 筥削り、筥研磨。 内面 筥削りの後、底部筥研磨。	③橙④底部
227	土師器 台付甕	台底 (8.3)	埋没土中	①石英粗、黒雲 母・砂細粒少量	裾部は折り返しがある。	外面 横方向指撫。 内面 上部筥調整、下半部横指撫。	②酸化③にぶい橙 ④ $\frac{1}{4}$
228	土師器 台付甕	台底(10.4)	埋没土中	①軽石・砂細粒 ②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$	裾部は比較的大きい折り返 しを呈す。	外面 指撫、筥調整。 内面 指撫。	
229	土師器 甕	口 (20.0) 頸 16.2	前 庭	①軽石・砂細粒 ②酸化③にぶい 黄橙④ $\frac{1}{4}$	大きく張りをもち肩部よ り、口縁部は外反する。器 肉はほぼ一定。	口縁部は内外面横撫、内面←刷毛目。 外面 頸部、刷毛目、肩部、筥削り。 内面 指頭圧痕、←筥撫。	
230	土師器 甕	口 (18.4) 頸 (15.3) 胴 (23.6)	墳 丘	①軽石・黒雲母・ 砂細粒②酸化③ にぶい黄橙④ $\frac{1}{4}$	焼成は229に近似する。口縁 部はゆるく外反する。器肉 は胴部に厚みを呈する。	口縁部は内外面横撫。 外面 筥削りの後、↑←刷毛目。 内面 指押え。筥撫、刷毛目調整。	胴部粘土紐は器厚 0.9・幅1.5が内面 に残る。
231	土師器 甕	口 (17.4) 頸 (13.6)	埋没土中	①軽石・黒雲母・ 石英・砂細粗粒 ②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$	頸部から「く」の字状に外 反。口唇部で更に反る。	外面 横撫。 内面 \刷毛目の後、横撫。	口縁部外面、煤付 着。

1号住居址出土遺物

番号	器 器 種 形	大 き さ	出 土 状 態	①胎土 ③色調 ②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
232	土師器 甕	口 17.6 頸 14.2	墳丘覆土	①軽石・黒雲母・ 砂細粒少量②酸 化③浅黄橙④½	口縁部は直立ぎみに立ちあ がり先端で外反。	口縁部は内外面共に横撫。 外面 篋削りの後、篋撫。 内面 指頭圧痕頸部にあり。篋撫。	胴部粘土紐は器厚 0.6・幅2.2が内面 に残る。
233	土師器 壺	口 (18.6) 頸 (13.6)	埋没土中	①石英粗粒少量 ②酸化③浅黄橙 ④口縁へ肩½	口縁部は「く」の字状に大 きく外反、口唇部は折り返 す。	口縁部は内外面共に横撫。指頭圧痕。 外面 篋削りの後、篋撫。 内面 指頭圧の後、篋撫。	肩部粘土紐は器厚 0.8・幅1.6。
234	土師器 壺	口 15.4 頸 9.1	前庭B地点	①石英・軽石・ 砂粗粒②酸化③ 浅黄橙④½	「く」の字に外反する口縁 部で、口唇部はつまみ出し によって平坦。	口縁部は内外面共に横撫。	
235	土師器 壺	頸 7.8 底 6.4 高 (16.1)	墳丘覆土	①黒雲母・軽石 細粒②酸化良好 ③橙④½	口縁部は「く」の字状に内湾 ぎみに反る。器肉は口縁部 は薄く、底部は厚みを呈す。	外面 口縁部指撫、胴部へ篋削り。 内面 口縁部へ篋削り。胴上部指頭 圧痕、胴下部篋撫。	肩部の粘土紐は器 厚0.7・幅1.4を呈 す。
236	土師器 壺	脚頸(13.0)	埋没土中	①砂粗粒②酸化 ③にぶい橙④½	長い口縁部は、外反し先端 で更に反る。器肉は口縁厚。	口縁部は内外面横撫。 外面 へ篋削り。内面 絞り痕、撫。	焼成は良好。
237	土師器 ミニチ ュア瓶	口 4.2 胴 5.8 高 7.5	前庭	①軽石・黒雲母 細粒少量②酸化 ③浅黄橙④完形	須恵器の提瓶と類似する器 形。口縁部は大きく外反し 先端は丸い。天井部は平坦。	胴部は天井部に円形粘土板を覆い、 側面に穴を穿ち、口縁部を接合。口 縁部は横撫。胴部外面は指撫。	天井部にあたる部 分に黒斑あり。内 面は指頭圧痕。
238	土師器 鉢	口 (13.2) 底 5.0 高 7.1	墳丘 墳丘覆土	①軽石礫、石英 粗粒②酸化軟質 ③明赤褐④½	口辺部は内湾しながら大き く外へ折れる。口唇部は内 湾ぎみ。内面は摺り鉢状。	外面 口辺上半は粘土紐巻きあげ成 形、指撫。下半部篋撫。 内面 口辺下半へ底部、一刷毛目。	内面口辺部へ指撫、 底部篋撫。粘土紐 器厚0.7・幅0.8。
239	土師器 杯	口 9.3 底 5.5 高 2.1	墳丘覆土	①軽石・砂細粒 少量②酸化③黒 褐④ほぼ完形	ロクロ成形による平底の 杯。口唇部は丸みを呈し器 肉が厚い。	口辺へ底部 ロクロ成形による横 撫。 外面 底部へ回転糸切り、未調整。	灯明血。内外面、 及び断面は炭素吸 着で黒色。
240	土師器 杯	口 12.4 底 7.3 高 2.6	墳丘覆土	①砂細粒少量② 酸化③浅黄橙④ ほぼ完形	ロクロ成形による平底の杯。 口辺部は外反し、更に反る 口唇部の先端部は丸い。	ロクロ成形による横撫。 外面 底部へ回転糸切り、未調整。	器厚0.5
241	土師器	3.5×3.7 厚 0.8	墳丘覆土	①砂粗粒多量② 酸化③橙④完形	円形粘土板状。	手づくね。指撫、撫おさえ。	
242	土師器	(3.4)×3.6 厚 0.7	周堀覆土	①軽石細粒少量 ②酸化③橙④½	241と同様。	手づくね。指撫、撫おさえ。	いぶし状態で、断 面、表面黒褐。

1号住居址出土遺物 (第118図、P L 46)

土 器

(単位：cm)

番号	器 器 種 形	大 き さ	出 土 状 態	①胎土 ③色調 ②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 甕	口 9.4 胴 12.3 高 12.9	床面直上	①軽石細粒多い ②酸化③浅黄橙 ④完形	口縁部は頸部から外反、口 唇部で僅か内折。胴部最大 径は器高の中央にあたる。	粘土紐巻きあげ。口縁部は横撫。 外面 ↓↑↑篋削り。 内面 へ指撫、一篋撫。	器厚0.4 内外面、いぶし状 態で黒褐色。

今井神社古墳群

2号住居址出土遺物 (第120図)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 高 杯	口 (20.0)	床面直上	①軽石・長石礫 粗細粒	②酸化	口辺部は大きく外反、稜部はゆるい。器肉は薄い。	外面 横撫、↑筥削り。稜部→筥削。 内面 横撫、筥撫。	③明赤褐④杯口辺部 $\frac{1}{4}$
2	土師器 高 杯	口 (18.3)	埋没土中	①軽石・黒雲母・石英粗細粒		ゆるい稜で外反する口縁部を呈す。	外面 へ刷毛目、横方向指撫。 内面 横方向指撫、筥撫。	②酸化やや軟質③橙④ $\frac{1}{6}$ 。口唇黒斑。
3	土師器 高 杯	脚頸 (3.4)	床面直上	①軽石・黒雲母・細粒	②酸化良好	脚部は、円柱状で裾部は外折し平坦。	外面 ↑筥撫。裾部指撫、筥研磨。 内面 絞り痕、↓指撫。裾横指撫。	③橙④ $\frac{1}{2}$ 弱 内面褐色。ホゾ嵌込式。
4	土師器 高 杯	脚頸 3.7	床面直上	①軽石・赤色粘土・砂粗粒		ホゾ嵌込式。脚接合部は細かい。	外面 へ刷毛目、↑筥撫。 内面 絞り痕。	②酸化③明赤褐④脚柱上部 $\frac{1}{2}$
5	土師器 甕	口 (10.2) 底 3.2 高 (12.6)	床面直上 埋没土中	①軽石・黒雲母・粗細粒	②酸化良好③橙④ $\frac{1}{6}$	口縁部は「く」の字状に外反。胴部最大径は器高の $\frac{2}{3}$ に位置。削り出しによる平底。	口縁部は横方向指撫。 外面 肩部筥の線刻。底部→筥削。 内面 →筥撫。	図面上復元 内外面炭素吸着。

荒砥青柳遺跡

1号住居址出土遺物 (第125・126図、P L 52)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 12.1 底 12.0 高 3.1	+25 埋没土中	①赤色粘土粗粒、砂細粗粒②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$		器高は口径の $\frac{1}{4}$ 、底部は扁平。口唇部は内湾する。	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り整形。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
2	土師器 杯	口 (12.0) 底 (11.8) 高 3.3	埋没土中	①軽石・砂・黒雲母細粒②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$		口辺部は器高の $\frac{1}{5}$ 、ゆるい稜を呈す。底部は丸みを帯びる。	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
3	土師器 杯	口 (12.7) 底 (12.5)	埋没土中	①軽石・砂細粒②酸化③浅黄橙④ $\frac{1}{4}$		口辺部はほぼ直立ぎみ。	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り。 内面 口辺部筥状工具使用の横撫。	
4	土師器 杯	口 (12.0) 底 (12.0) 高 3.3	+35	①砂細粒②酸化③浅黄橙④ $\frac{1}{4}$		器高は口径の $\frac{1}{4}$ 、口辺部は器高の $\frac{1}{4}$ にあたる。底部は扁平。	外面 口辺部は横撫。底部は磨滅して成・整形痕不明瞭。 内面 口辺部筥状工具使用横撫。	内面底部は指撫。
5	土師器 杯	口 (11.6) 底 (12.6)	埋没土中	①精選良好、砂細粒少量②酸化③断面、浅黄橙		最大径は底部にある。口辺部は外面に稜を呈して内湾ぎみに立ちあがる。	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	内外面共にいぶし状態で炭素吸着の黒褐色④ $\frac{1}{4}$
6	土師器 杯	口 (16.0) 底 (16.0) 高 4.9	+13 埋没土中	①軽石・赤色粘土・砂粗粒②酸化③明赤褐④ $\frac{1}{2}$		器高は口径の $\frac{1}{5}$ に、口辺部は僅か内湾ぎみにゆるやかな立ちあがり。	外面 口辺部は横撫、底部は手持ち筥削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
7	土師器 杯	口 (15.7) 底 (16.0) 高 6.1	+8	①石英・黒雲母・砂細粒②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$		器高は口径の $\frac{1}{5}$ 弱、口辺部は器高の $\frac{1}{5}$ を呈し、深い杯を呈す。器肉はほぼ均一。	外面 口辺部は横撫、底部手持ち筥削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
8	土師器 杯	口 (15.9) 底 (16.0) 高 15.7	埋没土中	①軽石・砂細粒②酸化③にぶい橙④ $\frac{1}{4}$		器高は口径の $\frac{1}{5}$ 弱、口辺部は器高の $\frac{1}{5}$ を呈す深い杯。器内は口唇部が薄い。	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	
9	土師器 杯	口 (16.4) 底 (14.0) 高 4.7	埋没土中	①軽石・砂細粒少量、水漉し粘土②酸化③橙		器高は口径の $\frac{1}{5}$ 弱、口辺部は器高の $\frac{1}{5}$ 、口辺部は底部から外反し稜を呈す。	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	④ $\frac{1}{4}$
10	土師器 杯	口 (14.4) 底 (14.2)	+8	①軽石・砂・赤色粘土細粒少量②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$		杯部の深い器形で大形の杯。口辺部の立ちあがりは底部からほとんど変化ない。	外面 口辺部短かい横撫、底部手持ち筥削り。 内面 筥状工具による筥撫。	
11	土師器 台付甕	台頸 6.6	+4	①軽石・石英・砂やや多い。②酸化④底～台部		胎土は22と同様。長甕の底部から台部は大きく外折する。器肉は台部は厚い。	外面 胴部↑筥削り。 内面 胴部指撫、台部↓筥削り。	③内面・断面浅黄橙、外面いぶし状態炭素吸着で黒。
12	土師器 台付甕	台頸 3.9	床面直上	①精選良好②還元ぎみ③灰白		台部は円錐形状を呈し、器肉は台部が厚い。	外面 台部↑筥研磨。 内面 胴底部筥撫、台部指撫。	②断面褐灰④底～台部
13	土師器 埴	台裾 (7.3)	埋没土中	①黒雲母・軽石細粒②酸化③橙		裾部は平坦で器肉は薄い。	外面 裾部横撫、↓筥研磨。 内面 横撫。	④台部 $\frac{1}{4}$

荒砥青柳遺跡

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
14	須恵器 高 杯	坏底(14.2) 脚頭 3.5	埋没土中	①軽石・石英粗 粒②還元硬質③ 灰④杯底部～脚 上半部 $\frac{1}{3}$	-	杯部口辺は底から内湾し稜 を呈す。脚部は接合部は細 く絞る。脚部透しは3ヶ所 を切る。	ロクロ成形。 外面 杯底部はくし状工具による一 刷毛目、一筥削り。脚上部刷毛目。 内面 横撫。	
15	土師器 長 甕	口 (22.0) 頸 (16.7)	床面直上 +7	①軽石・黒雲 母・砂細粒②酸 化③橙	-	口縁部はゆるく外反し、口 唇部で僅かに内湾する。器 肉は胴部均一で口縁部厚い。	外面 口縁部横撫、胴上部へ筥削り。 内面 口縁部横撫、胴上部筥撫。	④口縁～胴 $\frac{1}{4}$
16	土師器 長 甕	口 (23.3) 頸 (18.2)	+10	①軽石・黒雲母・ 砂・赤色粘土粗 粒②酸化③橙	-	口縁部はゆるく外反する。 器肉は口縁部が厚みを呈 す。歪みをもつ。	外面 口縁部横撫、胴上部へ筥削り。 内面 口縁部横撫、一筥撫。	④口縁～胴上部 $\frac{1}{4}$ 口縁部粘土紐幅1. 9。器厚0.8。
17	土師器 長 甕	口 (21.2) 頸 (15.5)	床面直上 カマド内	①軽石・黒雲 母・赤色粘土・ 砂細粒②酸化③ 橙	-	口縁部は「く」の字状に外 反し、口唇部で僅かに内湾。 器肉は薄い。	外面 口縁部粘土紐2段、接合痕あ り。横撫。胴部へ筥削り。 内面 口縁部横撫、胴上部横撫。	③橙④口縁部 $\frac{1}{4}$
18	土師器 長 甕	口 (22.7) 頸 (16.9)	カマド内 埋没土中	①軽石・黒雲 母・赤色粘土・ 砂細粒②酸化	-	口縁部は「く」の字状に外 反。器肉は薄い長甕。	外面 口縁部横撫、胴部へ、筥削り。 内面 口縁部横撫、胴部一筥撫。	③橙④口縁～胴中 央部 $\frac{1}{4}$
19	土師器 長 甕	口 (20.0) 頸 (17.2)	埋没土中	①軽石・黒雲母・ 砂細粒多く含む ②酸化③赤褐	-	口縁部はゆるやかに外反 し、口唇部で僅かに内湾。 口唇部外面に沈線1条巡 る。	外面 口縁部横撫、胴部へ筥削り。 内面 口縁部横撫、胴部横方向筥撫。	④ $\frac{1}{5}$
20	土師器 長 甕	底 (6.0) 高 (5.2)	埋没土中	①黒雲母微、砂 細粒②酸化	-	底部はほぼ平らで胴部は直 線的に立ちあがる。	外面 胴部へ、底部手持ち筥削り。 内面 筥撫。	③にぶい赤褐④ $\frac{1}{4}$
21	土師器 長 甕	口 18.0 頸 14.9	床面直上 埋没土中	①黒雲母細、軽 石・石英・砂粗 粒多い②酸化	-	直線的な胴部から口縁部は 外反。器肉は口縁部が厚く、 胴中央近くが薄い。	外面 口縁部横撫の後、1筥削り。 内面 口縁部横撫、胴部指による横 撫。胴上部に黒斑。	③にぶい黄橙④口 縁～胴上部 $\frac{1}{4}$
22	土師器 長 甕	口 (24.0) 頸 (18.0)	埋没土中	①黒雲母細、軽 石・石英・砂粗 粒多い②酸化	-	胴部からなだらかに続いて 外反する口縁部は、口唇部 で大きく外折、器肉は厚い。	外面 口縁部横撫、胴上部へ筥削り。 内面 口縁部横撫、胴部筥撫。いぶ し状の黒色付着。	③にぶい橙④ $\frac{1}{5}$
23	須恵器 中型甕	厚 0.8	埋没土中	①軽石細粒②酸 化③褐灰④破片	-	胴部のふくらむ甕の破片。	外面 平行叩き目。 内面 同心円当目。	

2号住居址出土遺物 (第128図、P L 52)

土 器

(単位：cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (14.5)	埋没土中	①軽石・砂細粒 ②酸化	-	扁平な底部から立ちあがる 口辺部は口唇部で僅かに内湾。	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り。 内面 口辺部横撫、底部指撫。	③にぶい橙④ $\frac{1}{4}$
2	土師器 杯	口 (14.2) 高 (4.3)	埋没土中	①黒雲母細、軽 石粗粒②酸化	-	扁平な底部、口辺部は内湾 きみ直立。口辺は器高の $\frac{1}{4}$	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り。 内面 口辺部横撫、底部指頭圧痕。	③にぶい橙④ $\frac{1}{5}$
3	土師器 杯	口 12.0 高 3.4	床面直上 埋没土中	①黒雲母細粒② 酸化③にぶい橙	-	器形は2と同様。底部は削 りにより扁平を呈す。	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り。 内面 横撫、指頭圧痕、指撫。	④ $\frac{1}{4}$ 外面1部黒斑。
4	土師器 杯	口 16.0 高 4.2	埋没土中	①黒雲母細粒② 酸化③橙④ $\frac{1}{5}$	-	口辺部は器高の $\frac{1}{4}$ にあた る。歪みをもつ杯。	外面 口辺部横撫、底部手持ち筥削り。 内面 横撫、指頭圧痕、指撫。	器肉は底部周囲が 厚い。

番号	器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
5	土師器杯	口 (21.3) 高 (4.0)	床面直上	①黒雲母・軽石・砂粗粒②酸化	扁平な底部から口辺部は短かく立ちあがり外反。	外面 口辺部横撫、底部手持ち篋削り。 内面 横撫、指頭圧痕。	③橙④ $\frac{1}{4}$ 。
6	土師器杯	口 (18.9)	床面直上 埋没土中	①軽石・長石・砂微粒少量含む。	削り出しによる扁平な底部から、口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ 。	外面 口辺部は横撫、底部は篋削り。 内面 横撫。	②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$ 。
7	土師器杯	口 (19.4)	埋没土中	①軽石・黒雲母・砂粗粒②酸化	扁平な丸底から口辺部は大きく外反し、口唇で内湾。	外面 口辺部横撫、底部手持ち篋削り。 内面 横撫。	③橙④口辺～底部周囲 $\frac{1}{4}$ 。
8	須恵器杯	口 (14.2) 高 (3.3)	埋没土中	①黒色鈹物・軽石②還元、硬質	平底から口辺部は外反して立ちあがり、口唇部で内湾。	ロクロ成形による横撫。	③灰④口辺部 $\frac{1}{4}$ 。
9	須恵器蓋	口 (18.0)	カマド内	①黒色鈹物粗粒②還元、硬質	かえりのある器高の低い蓋。かえりの先端は丸みをもつ。	ロクロ成形による横撫。かえりはつまみ出し。	③灰、天井部自然釉④ $\frac{1}{10}$ 。
10	須恵器蓋	口 (13.4)	床面直上	①黒色鈹物・軽石細粒②還元	やや小形で天井部は丸い。かえりの先端は鋭い。	ロクロ成形による横撫。かえりはつまみ出し。	③灰④ $\frac{1}{4}$ 。
11	土師器甕	胴 (18.4) 底 (6.5)	埋没土中	①砂・軽石細、赤色粘土粗粒②酸化③浅黄橙	胴部最大径は中位にあり、球形。底部は削り出しによりやや丸底さみ。器肉薄い。	外面 胴部 \uparrow 篋削り、底部手持ち篋削り。 内面 横方向篋撫。	④肩～底部 $\frac{1}{4}$ 外面胴部に黒斑。
12	土師器長甕	口 (21.0)	埋没土中	①軽石・黒雲母・砂細粒②酸化	なだらかな胴上部からゆるく外反。口唇部は外に稜有。	外面 口縁部指頭圧の後横撫、肩部 \uparrow 篋削り。内面 口縁横撫、横篋撫。	③にぶい橙④ $\frac{1}{4}$ 。
13	土師器甕	口 (15.9)	埋没土中	①軽石・黒雲母細粒②酸化③橙	口縁部は「く」の字状に外反する。器肉は胴部は薄い。	外面 口縁部横撫、肩部 \uparrow 篋削り。 内面 口縁部横撫、肩部篋撫。	④口縁～肩部 $\frac{1}{2}$ 強
14	土師器長甕	底 (6.0)	埋没土中	①軽石・黒雲母・砂細粒②酸化	平らな底部から胴部は鋭く立ちあがり。	外面 胴下部 \uparrow 篋削り、底部手持ち篋削り。内面 指撫。	③橙④ $\frac{1}{4}$ 。
15	須恵器甕	胴 17.7	床面直上	①軽石・石英・黒色鈹物粗粒	胴部は中位に最大径がある。底部は平底さみ。	ロクロ成形による横撫。 外面 底部手持ち篋削り。	②還元③外面明褐灰、断面灰褐④ $\frac{1}{4}$ 。
16	須恵器中型甕	厚 0.9	埋没土中	①軽石細粒少量②還元③灰	胴上位に最大径を呈す球体の甕。	外面 平行叩き目。 内面 同心円当目。	④胴部中位破片

3号住居址出土遺物 (第129図、P L 52)

土 器

(単位：cm)

番号	器種形	大きさ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1	土師器杯	口 (11.0)	埋没土中	①黒雲母・軽石微粒少量②酸化	扁平な底部から口辺部は内湾さみに立ちあがる。	外面 口辺部横撫、底部手持ち篋削り。 内面 横撫。	③橙④ $\frac{1}{4}$ 。
2	土師器杯	口 (13.8) 高 (2.5)	埋没土中	①黒雲母・軽石少量②酸化③橙	削り調整による扁平な底部で口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ 。	外面 口辺部横撫、底部手持ち篋削り。 内面 横撫。	④ $\frac{1}{4}$ 。
3	須恵器杯	口 (14.6) 高 3.5	+ 3	①軽石細粒②還元、やや軟質	平らな底部、口辺部は内湾さみに立ちあがる。	ロクロ成形による横撫。底部は \circ 回転糸切り。	③灰④ $\frac{1}{4}$ 。
4	須恵器杯	底 6.7	埋没土中	①長石・白色鈹物細粒②還元	平底。ロクロ目の残る広がり口辺の杯。	ロクロ成形による横撫。底部 \circ 回転糸切り。	③灰④口辺下部～底部 $\frac{1}{2}$ 。
5	須恵器中型甕	厚 0.7	埋没土中	①白色・黒色鈹物細粒②還元	口唇部は稜を呈す。	外面 横撫。口縁中位に波状文2条巡る。 内面 横撫、自然釉付着。	③赤灰④口縁部破片

荒砥青柳遺跡

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
6	土師器 長 甕	口 20.0 頸 17.4	床面直上 +9	①黒雲母微、軽石・砂細粒		胴部最大径は肩部にあり、口縁部はゆるく外反し短い。	外面 口縁部横撫、胴部一へ！篋削り。内面 横撫、指頭圧痕、篋撫。	②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$
7	土師器 長 甕	底 (5.1)	床面直上	①黒雲母・砂細粒②酸化③淡黄		削り調整による平底。胴部は外方に鋭く立ちあがる。	外面 胴部へ、底部手持ち篋削り。内面 篋撫。	④ $\frac{1}{4}$ 外面胴下部煤付着。

4号住居址出土遺物 (第130図、P L 52)

土器・鉄製品

(単位：cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (12.4) 底 (10.4) 高 (3.5)	床面直上 埋没土中	①黒雲母・軽石細粒②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$		削り調整による扁平な底部。口辺部は内湾ぎみに外反。器内は薄く均一。	外面 口辺部横撫、底部手持ち篋削り。内面 口辺部横撫、底部周囲指頭圧。	
2	須恵器 椀	底 (6.9) 高台 7.0	床面直上	①金雲母微、砂・軽石粗、赤色粘土礫粒②還元		付高台の椀。椀底部は平底。	ロクロ成形による横撫。外面底部は○回転糸切り、未調整。	②軟質③灰白、底部灰④口辺上部欠損
3	須恵器 椀	口 (14.2)	埋没土中	①軽石・砂細粒②還元、軟質		ロクロ目の残る外広がり椀。	ロクロ成形による横撫。	③灰白④口辺部 $\frac{1}{4}$
4	土師器 甕	口 (21.2) 頸 (19.1)	床面直上 埋没土中	①黒雲母微、砂・軽石細粒②酸化③淡橙④口縁 $\frac{1}{4}$		「コ」の字状口縁部を呈する長甕。口唇部は僅かに内湾。	外面 横撫。 内面 横撫。	
5	土師器 甕	口 (20.2) 頸 (17.3)	埋没土中	①黒雲母・軽石・砂細粒②酸化③にぶい橙④ $\frac{1}{4}$		「コ」の字状口縁の長甕。口縁部のカーブは4に比べてゆるやか。	外面 口縁部横撫、胴上部へ篋削り。内面 口縁部横撫、胴上部横方向篋撫。	
6	土師器 長 甕	底 (8.0)	埋没土中	①黒雲母微、軽石・砂細粒		平らな底部から鋭く立ちあがる胴部。器内は薄い。	外面 胴下部へ篋削り、底部手持ち篋削り。内面 篋撫。	②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$
7	鉄製品 金 具	身幅 0.8 全長 6.2	埋没土中	④完形		長さ2.8cmの釘状部分を有するL字状金具である。断面の形状は、隅丸方形を呈する。		

8号土壇出土遺物 (第132図)

土 器

(単位：cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (12.2)	埋没土中	①黒雲母微粒②酸化③橙④ $\frac{1}{4}$		口辺部は器高の $\frac{1}{3}$ にあたる。底部は扁平ぎみ。	外面 口辺部横撫、底部手持ち篋削り。内面 横撫。	
2	土師器 長 甕	底 (8.0)	埋没土中	①金・黒雲母微、軽石細粒②酸化		平底。長甕の直線な広がり。	外面 胴部へ篋削り、底部篋削り。内面 篋撫。	③橙④ $\frac{1}{4}$

9号土壇出土遺物 (第132図)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 坏	口 (10.6)	埋没土中	①金・黒雲母微、 軽石・砂細粒		口辺部は器形の $\frac{1}{3}$ にあたる。底部はやや扁平。	外面 口辺部横撫、底部手持ち篋削り。内面 篋による横撫。	②酸化③橙④ $\frac{1}{2}$ 。
2	土師器 坏	口 (13.0)	埋没土中	①金雲母微、砂 粗粒少量②酸化		口辺部は器高の $\frac{1}{3}$ 弱で短い。底部はやや扁平さみ。	外面 口辺部横撫、底部手持ち篋削り。内面 指撫、篋撫。	③橙④ $\frac{1}{2}$ 。
3	土師器 坏	口 (16.4)	埋没土中	①金・黒雲母微、 砂細粒②酸化		口辺部は器高の $\frac{1}{3}$ 弱で、扁平さみな丸底から外反する。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。内面 横撫、篋撫。	③橙④ $\frac{1}{2}$ 。
4	須恵器 埴	口 (10.0)	埋没土中	①軽石・石英粗 粒少量②還元		頸部から「く」の字状に外反する口縁、口唇部で内湾。	外面 口縁部横撫、頸部くし状工具による横方向刷毛目。内面 横撫。	③灰④ $\frac{1}{2}$ 。

3号井戸出土遺物 (第135図、P L 52)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	須恵器 中型甕	口 25.4 頸 19.0	埋没土中 2住埋土	①軽石細粒少量 ②還元、硬質③ 灰④口縁～肩部		大きく張った肩部から、口縁部は大きく外反し口唇部はつまみ出しで外面に稜有。	口縁部、回転伴う横撫。 外面 平行叩き目。 内面 同心円当目。	口縁部内面、肩部外面に自然袖付着。

1号溝出土遺物 (第136図、P L 52)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (11.0) 底 (10.4)	埋没土中	①金・黒雲母微、 軽石細粒少量② 酸化③橙④ $\frac{1}{2}$ 。		口辺部は器高の $\frac{1}{2}$ 弱。扁平さみな丸底から立ちあがる。	外面 口辺部横撫、底部一篋削り。 内面 口辺～底部横撫。	外面底部黒斑。
2	土師器 台付甕	台頸 (5.0) 底 (7.8)	埋没土中	①黒雲母・軽石 細、石英粗粒② 酸化③浅黄橙		胴底部は細く絞る。台部は比較的短かく、裾部は大きく広がる。	外面 台部、指撫。 内面 台部篋撫。	④台部 $\frac{1}{2}$ 。
3	土師器 甕	底 (10.0)	埋没土中	①黒雲母細、砂 粗粒②還元さみ		底は平ら。胴部はふくらみをもち立ちあがる広口甕。	外面 胴下部一篋削り、底部篋削り。 内面 篋撫。	③灰白、断面灰④ 底部 $\frac{1}{2}$ 。

2号溝出土遺物 (第138図、P L 52)

土 器

(単位: cm)

番号	器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ③色調	②焼成 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	土師器 杯	口 (11.8)	埋没土中	①黒雲母微、軽 石細粒少量		口辺部は器高の約 $\frac{1}{2}$ にあたり、直立さみに立ちあがる。	外面 口辺部横撫、底部篋削り。 内面 横撫。	②酸化③浅黄橙 ④ $\frac{1}{2}$ 。口辺部は歪む。
2	土師器 杯	口 (14.0) 底 (13.5)	埋没土中	①黒雲母・軽石 砂細粒②酸化 ③にぶい橙④ $\frac{1}{2}$ 。		口辺部は器高の $\frac{1}{3}$ にあたる。扁平さみな底部から口辺部は内湾さみに立ちあがる。	外面 口辺部横撫、底部手持ち篋削りによりゆるい稜を呈す。 内面 横撫。	
3	須恵器 台付杯	口 (20.2) 高台(15.3)	埋没土中	①精選良好②還 元、やや軟質③ 灰白④ $\frac{1}{2}$ 。		平らな底部から短かい口辺部が内湾さみに立ちあがる。付け高台の底は平ら。	ロクロ成形による横撫。 外面底部撫調整。	

荒砥青柳遺跡

番号	器 器 種 形	大 き さ	出土状態	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器 形 の 特 徴	成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
4	須恵器 台付壺	高台(10.8)	埋没土中	①精選良好②還元、軟質③灰白	高台部内面は沈線1条巡らせた2段構成。	ロクロ成形による横撫。	④胴下部～高台 $\frac{1}{5}$
5	須恵器 中型甕	厚 1.0	埋没土中	①白色鉱物微～粗粒②還元硬質	胴部は中位からやや上方が大きく張る球体の甕。	外面 横方向平行叩き目。 内面 横方向撫調整。	③灰、断面灰褐④胴中央部破片
6	陶 器 擂 鉢	底 (14.4)	埋没土中	①白・黒色鉱物細～粗粒②還元③灰④ $\frac{1}{4}$	平底。大きく広がり立ちあがる。	外面 体下部横撫の後、へくし状工具による刷毛目。底部の回転糸切り。 内面 揃り面で磨滅。	
7	陶 器 擂 鉢	口 (30.8) 底 9.0 高 11.4	+28	①白色鉱物・石英・砂細～礫粒②還元ぎみ	平底。体部は大きく広がる。口唇部は平らで外に稜をもち、一ヶ所片口状を呈す。	外面 体部↓篋撫、口唇部横撫。 内面 横方向の篋撫。使用による磨面が器高の $\frac{1}{5}$ にある。	③にぶい褐④ $\frac{1}{5}$

付図1 荒砥北原遺跡発掘区域全体図

